授業科目	運動療	去 A			担当教員	元木 純			
 対象年次・学期	2 年・追	<b>五年</b>		必作	 多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	30 🗉	時間数	60 時間	
授業目的				も根幹をなすものである。この授業では運動療法の基本的な原則・ 症状に対する治療プログラム実施に役立てていく。					
到達目標	②運動(	助療法の概要と背景、原則、方法論等について説明できる。 助の効果と弊害について、科学的根拠にもとづいて説明できる。 祭の患者に対して運動療法中心の治療プログラムを立案できる。							
テキスト・ 参考図書等	標準理	学療法院	学 専門分野 運動	療法学	台総論 第5版				
	評価に	方法	評価割合(%)			評価	<b>T</b> 基準		
	試験		100						
評価方法・	レポー		0						
評価基準	小テス	<u> </u>	0	定期記	試験により評価	īする。			
	提出物		0						
 履修上の		生の治療		ア舩立		運動学の知識	**が不可欠である	運動療法の履	
留意事項			さらに知識を深め			<i>生</i> 切于 ッ 加		。 廷却凉瓜 >> 陂	
履修主題・	回		履修主題			J	履修内容		
履修内容	1	オリコ   療法 <i>0</i>	Cンテーション、 D概念	運動	運動療法の概	既念、この科目	目を学ぶ目的を理	2解する。	
	2	運動源 理	寮法の歴史、リス	ク管	運動療法の発展してきた歴史とその概念、運動療法実施時 のリスク管理について学習する				
	3	基本的	为運動		身体運動の基本的種類について、運動を発現する力と筋収 縮様式による内容から理解する				
	4	関節ロ	丁動域運動、伸張	運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域 運動、伸張運動の 目的、方法について学習する				
	5	関節可	<b>可動域運動、伸張</b>	運動	運動、伸張運	重動の 目的	節可動域制限の病 的、方法について	学習する	
	6	関節可	可動域運動、伸張	運動	運動、伸張週	運動の 目的	節可動域制限の症 的、方法について	学習する	
	7	筋力均	曾強運動		ム、筋力増強	館の目的と プ	筋力低下と筋力増 方法について学習	する	
	8	筋力均	曾強運動		筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と 方法について学習する 筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と 方法について学習する				
	9	筋力均	曾強運動						
	10	筋力均	曾強運動		筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と 方法について学習する				
	11	筋力均	曽強運動		ム、筋力増強	鼠の目的と フ	筋力低下と筋力増 方法について学習	する	
	12	筋力均	曾強運動		ム、筋力増強	館の目的と フ	筋力低下と筋力増 方法について学習	する	
	13	筋力均	曾強運動				筋力低下と筋力増 方法について学習		
	14	筋力均	曽強運動		筋収縮の生理 ム、筋力増殖	理学的機序、第 第の目的と プ	筋力低下と筋力増 方法について学習	強のメカニズ  する	
	15	持久力	力増強運動		いて学習する		持久力増強運動 <i>σ</i>		
	16	持久力	力増強運動		いて学習する		持久力増強運動 <i>σ</i>		
	17		1 増強運動	- ^	いて学習する	·	特久力増強運動 <i>の</i>		
	18		制御と運動学習理 (運動療法	論に	運動制御と選 構成について		論を理解し、理論	能に基ずく練習の 	

19	協調性運動障害に対する運 動療法	運動の協調性を保つための機序、協調性運動の目的と方法 について学習する
20	バランス障害に対する運動 療法	バランス障害の分類、運動療法の理論と方法について学習 する
21	姿勢障害に対する運動療法	姿勢障害の分類、運動療法の理論と方法について学習する
22	発達と運動療法	発達とその障害、発達を促す運動療法について学習する
23	感覚障害・筋緊張異常に対 する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学 習する
24	感覚障害・筋緊張異常に対 する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学 習する
25	痛みに対する運動療法	痛みの定義・原因、痛みに対する運動療法について学習す る
26	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
27	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
28	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
29	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
30	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する

授業科目	運動療法 A	担当教員	小野直也		市内回復期病院で理学療法士と
		実務 経験	有:■	無:□	して5年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	一般臨月	未医学,	A		担当教員	鬼原彰			
対象年次・学期	2 年・後	<b></b>		必修・選択区分		必修	単位数		
授業形態				授業回数 15 回 時間数 30 時間				30 時間	
授業目的	を学習 <sup>-</sup> ・多く(	するもの の臨床を	のである。	、精神医学などカリキュラムに取り入れられている科目以外の領域 ており、要点のみの講義となるので、さらに他の成書を用いて学習					
到達目標	・下記の	の診療科目に関して、主要な疾患概要の理解を深める							
テキスト・ 参考図書等	PT·0	г・ѕт	のための一般臨身	末医学	第3版				
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポー	<u> </u>	0						
評価基準	小テス	<u> </u>	0	定期記	試験により評価	i			
	提出物		0						
 履修上の	その他		Ü						
留意事項	欠席せて	ず、予覧	<b>習復習をすること</b>						
履修主題・			履修主題			履修P	內容		
履修内容	1	老年图	<b>E</b> 学		老年医療とリハビリテーション				
	2	老年图	三学 二十二		老年医療とリハビリテーション				
	3	老年图	三学 二十二			ハビリテーション			
	4	消化器	<b></b>		・主な消化器 ・外科総論(-	₹系外科疾患とリ/ −部)	ヽビリテーシ	ョン	
	5	消化器	景系外科			系外科疾患とリ/	ヽビリテーシ	ョン	
	6	脳外和	<u> </u>			<b>※</b> 系外科疾患とリル	ビリテーシ	ョン	
	7	脳外和	 斗			<b>経系外科疾患とリ</b> ル	ビリテーシ	ョン	
	8	循環器	8外科、呼吸器外	——— 科	・主な循環器	系外科疾患とリ/ 景系外科疾患とリ/			
	9	循環器	<b></b>	科	・主な呼吸器 ・外科総論(-		ヽビリテーシ	ョン	
	10	救命排	<b></b>		・心肺蘇生法、ショック、呼吸管理、中心静脈栄養、輸血 法、救急処置、ICU ・外科総論(一部)				
	11	皮膚和	¥		解剖、生理、	症状、病態生理、	主な皮膚疾	患	
	12	泌尿器	<b></b>			診断、検査、主な			
	13	産婦ノ	 \科		解剖、生理、 器疾患	妊娠、分娩、出産	E、異常 <u>妊娠</u>	と合併症、生殖	
	14	眼科				症状、病態生理、	主な眼疾患		
	15	耳鼻和	4		解剖、生理、 患	症状、病態生理、	主な耳・鼻	・喉頭・咽頭疾	

授業科目	一般臨床医学 A	担当教員	外部講師		病院勤務の臨床医
1又未11日	<sup>加、</sup>	実務 経験	有:■	無:□	
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	神経障害学 A	担当教員	中村(仁志夫		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	ヒトの精神・身体活動は全身系として 傷害された組織の機能(機能障害)を ョン計画)が重要である。その基軸と 毎回の授業後に提示される課題に対す する。	回復、補填するには障害なるべき神経学を主なタ	害克服の基本戦略に 実患の特徴を把握す	ニ基づく理念( ーるとともに、	リハビリテーシ
到達目標	1) 脳機能の局在と特性について例示し 2) 運動神経系と感覚神経系の障害を係 3) 脳血管障害の病態を説明できる。 4) 神経変性疾患を例示し、説明できる 5) 脳腫瘍や神経筋疾患を例示し説明で 6) 認知症の病態を理解し、その対応を	別示し、説明できる。 る。 できる。			
テキスト	・「病気がみえる」第7巻 脳・神経 社)	第2版(メディックメ	ディア		
参考	第4版(医学書院)	・標準理学療法	学・作業療法学専門	]基礎分野 「	神経内科学」

・「医療系学生のための病理学」 第5版第19章 (講談社)

図 書

上

の

留 意

項

等			
評	評価方法	評価割合(%)	評価基準
価方	試験	42	
法		0	毎回のカード(小課題の演習と理解内容の確認及び質問と回答)について
評	小テスト	0	毎回のカート(小味度の演音と理解内存の確認及の負向と回答)に りいて の添削と評価(70 点満点)および
価	提出物	58	定期試験(筆記・50 点満点)の成績とを合わせて全体的評価とする。
基準	その他	0	

- 1) 病理学の本 (特に第19章) も常に脇に置くこと。、2) 解剖学・生理学の知識を常に復習すること。、3) 新 聞や雑誌の病気の記事をよく読むこと。
- 4) 主要な英単語については和名だけではなく、英語名による習得に努めること。 5) 毎回のカードは各自の努力によって作成し、友達の書いたものを単に引き写す行為は自尊心を培う意味から も極力避けること。

履修		履修主題	履修内容
ぎ 題・履修内容	1	医学・医療史、神経学の歴史に おける重要人物の把握、 医療倫理の基本	医聖ヒポクラテス、神経学の父シャルコー、脳外科の父クッシング、変性性認知症の父アルツハイマー、遺伝性舞踏病の発見者ハンチントン、看護の母ナイチンゲール、教育者オスラー、X線の父レントゲン、錐体外路系の提唱者平澤興らの業績を知ることにより、医療人存在の理念を学ぶ
	2	神経解剖学(1)中枢神経系の 基本的構成	脳幹の範囲、脳機能の局在、優位半球と劣位半球、日本人の脳の 特徴
	3	神経解剖学(2)脳の働きを支 える機構の実態	錐体路、錐体外路系、感覚路、脳血管系の解剖、髄液循環、血液 脳関門

4	神経解剖学(3)脳から全身臓 器への指令とフィードバック	自律神経系、脊髄の解剖、脳神経症状の見方
5	神経学的診断法(1)生理学的 検査、症候と画像との対比	運動調節・感覚の検査、腱反射など、生理学的検査の種類と対象 となる疾患
6	神経学的診断法(2)画像所 見、髄液所見などの意義	CT と MRI など画像検査、脳波、髄液検査などの基本的知識と応用(てんかんを含む)
7	意識障害・運動麻痺の基本認識 と病態の理解	意識障害の分類、脳死の定義、運動麻痺と錐体路のレベル
8	錐体路と錐体外路系の異常を示 す変性疾患	随意運動と不随意運動、運動ニューロン病(ALS ほか)、パーキンソン症候群
9	運動失調を示す変性疾患	ハンチントン病、脊髄小脳変性症など(多系統萎縮症を含む)の 症候と分類
10	失語症と認知症の分類とその内 容	失語症の分類、認知症の分類と対策、アルツハイマー病など
11	脳血管障害の種々相と対策	脳梗塞(脳血栓と脳塞栓)、脳出血、くも膜下出血、脳動脈瘤な ど
12	脳腫瘍の分類と悪性度および経   過	グリオーマと非グリオーマ(髄膜腫ほか)、母斑症
13	神経難病 (1) 脱髄疾患、脊髄 空洞症などの成因	多発性硬化症、副腎白質ジストロフィー、脊髄空洞症、先天性代 謝異常
14	神経難病(2)神経筋疾患、栄 養障害性病態など	筋ジストロフィー症、重症筋無力症、栄養障害、ミトコンドリア 脳筋症など
15	プリオン病ほか、まとめ	ヤコブ病と BSE、臨床神経学の今後の課題

授業科目	神経障害学 A	担当 教員	中村仁志:	夫	新潟大学脳研究所で 7 年間研究 の後、北海道大学で神経病理学に
<b>汉</b> 耒付日	种社牌古 <b>子</b> A	実務 経験	有:■	無:□	携わり、25 年以上各養成校で教 員として勤務
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	去研究活	去 II B		担当教員	横野 裕行			
対象年次・学期	2 年・前	<b></b>		必修	冬・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	0 時間	
授業目的	・理学療法において研究とは、臨床で起こる様々な問題を解決するためのプロセスである。 ・本科目では研究の意義を理解すること、統計処理について理解すること。							スである。	
到達目標			を理解し、自ら疑 方を理解できるこ		決しようと行	動できること			
テキスト・ 参考図書等	なしなし								
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		60						
評価方法・	レポー	<b>-</b>	0			と定期試験 60 点に	て評定し、	合計 60 点以上	
評価基準	小テス	<b>-</b>	0		各とする。 SO占未満の場々	合け 再試験にて	60 占以上を	合格とする。	
	提出物		0	合計 60 点未満の場合は、再試験にて 60 点以上を合格とする					
屋板 1 の	その他		40						
履修上の 留意事項	自ら能動	動的に訓	問べる、考えるこ	とが必	る要な授業です	0			
			履修主題			履修内	内容		
履修主題・ 履修内容	1	オリコ 方法①	ニンテーション・	研究	理学療法士が	履修P 「研究する必要性・			
			ニンテーション・	研究			方法を知る		
	1	方法①	ニンテーション・	研究	理学療法士カ	で研究する必要性・	方法を知る	解する	
	1 2	方法①	ンテーション・ ) j法② j法③	研究	理学療法士が信頼性・妥当	、研究する必要性・ 、研究する必要性・	方法を知る 方法を知る /について理		
	1 2 3	方法① 研究力 研究力	ンテーション・ ) j法② j法③	研究	理学療法士か 信頼性・妥当 母集団・標本	が研究する必要性・ が研究する必要性・ は性、研究デザイン	方法を知る 方法を知る (について理 尺度につい		
	1 2 3 4	方法① 研究力 研究力 統計学	ニンテーション・ 可法② 可法③ 位① 世②	研究	理学療法士か 信頼性・妥当 母集団・標本 散らばり、標	が研究する必要性・ が研究する必要性・ は性、研究デザイン ・統計学的推論、	方法を知る 方法を知る /について理 尺度につい E解する	て理解する	
	1 2 3 4 5	方法① 研究方 研究方 統計学	ニンテーション・ 可法② 可法③	研究	理学療法士か 信頼性・妥当 母集団・標本 散らばり、標 正規分布、ハ 理解する	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 4性、研究デザイン 「・統計学的推論、 長準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何	方法を知る 方法を知る /について理 尺度につい 理解する / ンパラメト	て理解する	
	1 2 3 4 5 6	方法① 研究方 研究方 統計学 統計学	ニンテーション・ 可法② 可法③ 単① 単② 単③ 単④	研究	理学療法士が 信頼性・要性 母集団・標本 散らばがった。 理解がある。 対とは何かなの理解	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 4性、研究デザイン 「・統計学的推論、 長準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何	方法を知る 方法を知る について理 尺度につい 関解する ンパラメト 」か、差があ	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7	方法① 研究方 統計学統計学統計学統計学	ニンテーション・ 可法② 可法③ 単① 単② 単③ 単④	研究	理学療法・妥当を関する。 一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 4性、研究デザイン 「・統計学的推論、 「準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何 よする	方法を知る 方法を知る /につい Repta /ンパラメト Tか、差があ P率、偽陽性	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7	方法① 研究方 统計学统 統計学统 統計学	ニンテーション・ 可法② 可法③ 全① 全② 全③ 全④ 全③	研究	理学療生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	が研究する必要性・ が研究する必要性・ 性、研究デザイン ・統計学的推論、 準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何 はする に、陰性・陽性適中	方法を知る 方法を知る につい 尺度につい 上解する ンパラメト 丁か、 差があ 中率、 偽陽性 ことめる	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7 8	方研究 計 学 学 学 新 新 新 开 开 架 架 新 計 学 学 学 学 家 新 新 計 学 学 家 雷	ニンテーション・ 可法② 可法③ 対① 並② 並③ 並④ かも も も も も も も も も も も も も も	研究	理学 標 集 ら 規解応は度理身 が に 乗 が の が の が の が の が の が の が の が の が の が	が研究する必要性・ が研究する必要性・ は性、研究デザイン な・統計学的推論、 選準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何 はする に、陰性・陽性適中	方法を知る 方法を知る についで につい とが、差があい。 とめる	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	方研 研統統統統統 新計学 新 统统 统 新 子 等 究 需 要 究 需	コンテーション・ 17法② 17法③ 2 2 2 2 3 4 4 4 4 5 十画を立てよう 十画を立てよう	研究	理学 信 母 集 ら 規解応は度理 身 身 が が が が が が が が が が が が が が が が が	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 4性、研究デザイン 「・統計学的推論、 標準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何 はする に、陰性・陽性適中 にいことを考え・ま	方法を知る 方法を知る についに にのが、差があり、 でをしますが、 でをしますが、 できる。 できる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	方班 统统统统 研研研研研研研研研研研研研研研	コンテーション・ 対法② 対法③ 単① 単② 単③ 単④ 単一 単一 単一 単一 単一 単一 単一 単一 単一 単一	研究	理信のは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きなでは、大きないでは、ないでは、大きないでは、大きないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	が研究する必要性・ が研究する必要性・ は性、研究デザインス・統計学的推論、 要準偏差について理 があがないとは何 対応がないとは何 は、陰性・陽性適中 にいことを考え・ま	方法を知る方法を知る方法を知るについに度するプラメトである。	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	方研究,持持持統統研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研	コンテーション・ 可法② 可法③ 位① 位② 位③ 位④ 位⑤ 十画を立てよう 十画を立てよう 十画を立てよう 十画を立てよう 十画を立てよう	研究	理信母 散正理対と感で自自自自自自自自由 自由	が研究する必要性・ が研究する必要性・ は性、研究デザインを・統計学的推論、 薬準偏差についク・ノ 対応がないとは何ないとは何ないとは何ないとなき者え・ままれてことを考え・ままれてことを考え・ままれていことを考え・ままれていことを考え・ままれていことを考え・ままれていことを考え・ままれている必要にいる必要には、	方法を知る 方法を知る につでにる ア保するラメ 差が で、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	て理解する リックについて る・関係がある	

授業科目	 	担当教員	横野裕行		道内・外の病院で理学療法士とし
及水平百	Z J JANANI JOHA II U	実務 経験	有:■	無:□	て8年勤務
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	運動器障	章害理学	ዾ療法学 A		担当教員	吉田 智子				
対象年次・学期	2 年・後	り期		必何	多・選択区分	必須	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	0 時間		
授業目的	た基礎を	口識を理		識を基	はに理学療法評	状・障害、解剖・ 価項目の選択、統				
到達目標	2. 基礎 3. 評価 きる。	知識を .結果か	基に評価項目を	挙げ、 、その	根拠を説明でる他の評価との	関連、動作・生活				
テキスト・ 参考図書等	局所と3 リハビ! 義肢装!	osslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 所と全身からアプローチする運動器の運動療法 第1版 ハビリに直結する!運動器画像の見かた 技装具学 第2版 集整形外科学 第13版								
	評価力	5法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100							
評価方法・	レポート 0									
評価基準	小テスト		0	定期記	E期試験により評価する。 					
	提出物		0							
履修上の 留意事項	・身体 <i>0</i> ・授業態	0露出だ	型学、運動学の復 が必要な授業は、 へ良な者は厳しい ての適正及び態度	動きや 対応を	Pすい服装で参 ∵する。		への参加を割	認めない。		
履修主題・	□		履修主題		履修内容					
履修内容	1	運動器	器疾患理学療法の	基礎	運動器疾患理学療法の基礎					
	2	骨折①	)		骨折の理学療法〔基礎知識~評価〕					
	3	骨折②			骨折の理学療法〔基礎知識~評価〕					
	4	末梢神	<b>神経障害</b>		末梢神経障害と理学療法〔基礎知識~評価〕					
	5	変形性	上関節症①		変形性関節症	Eの理学療法〔基礎	を知識~評価	)		
	6	変形性	性関節症②		変形性関節症	<b>Eの理学療法〔基礎</b>	を知識~評価	)		
	7	捻挫、	靭帯損傷、脱臼	1	捻挫、靭帯損	員傷、脱臼の理学療	法〔基礎知	識〕		
	8	捻挫、	靭帯損傷、脱臼	2	捻挫、靭帯損	員傷、脱臼の理学療	[法〔評価〕			
	9	腰部疫	患		腰部疾患の理	<b>里学療法〔基礎知</b> 謂	は~評価〕			
	10	肩関節	5疾患		肩関節疾患 <i>σ</i>	)理学療法〔基礎知	1識~評価〕			
	11	切断①	)		切断・総論、	切断のリハビリテ	ーション、	切断の理学療法		
	12	切断②			切断・総論、	切断のリハビリテ	ーション、	切断の理学療法		
	13	切断③			切断・総論、	切断のリハビリテ	ーション、	切断の理学療法		
	14	関節り	リウマチ①		関節リウマチ〔基礎知識から治療まで〕					
	15	関節り	リウマチ②		関節リウマチ	関節リウマチ〔基礎知識から治療まで〕				

授業科目	     運動器障害理学療法学 A	担当教員	吉田智子		市内整形外科病院にて理学療法
及水平口	<del>定到</del> 邮件1/41//// / / / /	実務経験	有:■	無:□	士として 10 年以上間勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

	I								
授業科目	解剖学:	実習 A			担当教員	山内 真帆	山内 真帆		
対象年次・学期	2年・	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間	
授業目的			基礎になる骨・筋 して、その構造と			型等を観察し実習 する。	を行う。さ	らに解剖された	
到達目標	・骨やが できる。		ごめとする人体臓	器の構	<b>靖造、名称や位</b>	置および構造につ	いて理解し	説明することが	
テキスト・ 参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 筋学ハンドブック 関節学ハンドブック								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポー	<u> </u>	0						
評価基準	小テス	<u> </u>	0	試験に	こより評価する	0			
	提出物		0						
	その他	- 半 / 土	0 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)						
履修上の 留意事項	1年次に学んだ内容が基礎となるため自ら能動的に調べることを通して主体的に学習すること。 テキスト等を用い予習・復習を行うこと。 解剖実習見学では、敬意を持ち医学を学ぶ学生として真摯に向き合い、かつ積極的に学習に取り 組むこと。								
履修主題・			履修主題			履修!	 内容		
履修内容	1	骨学乳	 実習総論		オリエンテー	 -ション・骨の名科	 尓や位置・構	<u></u> 造について学習	
	2	骨学乳	実習各論①		骨の名称や位	位置・構造について	 C学習		
	3	骨学乳	実習各論②		骨の名称や位	置・構造についる	て学習		
	4	胸腔・	・腹腔臓器①		,	心臓・肺・肝臓・腎臓・胃・腸など主な臓器の名称や位 置・構造について学習			
	5	胸腔・	・腹腔臓器②		心臓・肺・肝臓・腎臓・胃・腸など主な臓器の名称や位置・構造について学習				
	6	血管系	Ŕ		主な血管の位置・構造について				
	7	神経系	<u></u> [1]		中枢神経(脳・脊髄)の名称や位置・構造について				
	8	神経系	<u></u>		中枢神経(脳	中枢神経(脳・脊髄)の名称や位置・構造について			
	9	神経系	<u></u>		末梢神経の名	る称や位置・構造に	こついて		
	10	神経系	<u></u>		末梢神経の名	る称や位置・構造に	こついて		
	11	筋学乳	<b>美習①</b>		筋の名称や位	位置・構造について	て学習		
	12	筋学乳	<b>美習②</b>		筋の名称や位	位置・構造について	て学習		
	13	筋学乳	€習③		筋の名称や位	位置・構造について	て学習		
	14	筋学乳	実習④		筋の名称や位	位置・構造について	て学習		
	15		学実習見学のオリ ション・準備	エン	人体解剖学実 び準備学習	ミ習見学にあたっ <sup>っ</sup>	てのオリエン	テーションおよ	
	16	解剖詞	実習見学の準備学 まとめ	習お	解剖された <i>人</i> 理解するなと て整理し理解		解剖実習で学	んだ内容につい	
	17		実習見学の準備学 まとめ	 !習お	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について 理解するなどの準備学習や各解剖実習で学んだ内容について整理し理解する学習			んだ内容につい	
	18	解剖多	実習見学			、体を観察し、構造 スケジュールの詳			
	19	解剖詞	<b>実習見学</b>		解剖された人	、体を観察し、構造	 造と各器官の	関係性について	

		理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予 定)
20	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について 理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予 定)
21	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について 理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
22	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について 理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
23	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について 理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)

授業科目	解剖学実習 A	担当教員	山内真帆		道内の病院に理学療法士として
1又未行口	併刊于天日へ	実務 経験	有:■	無:□	8年以上勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	内部障害学 B			担当教員	鬼原彰					
対象年次・学期	2 年・追	 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		必值	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	疫系がる かを学び	・人間の基本的構造とその機能をコントロールする3つのシステムである神経系、内分泌系、免疫系がどのようにして細胞レベル、組織レベル、個体レベルの機能維持とかかわりを有しているかを学び、それをリハビリテーションに応用する。リハビリテーションにおいても分化と統合の時代となっている。								
到達目標	・各臓器	・各臓器系統別に疾患の成り立ちと診断・治療上の要点を学び、理学療法に応用できる。								
テキスト・ 参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版									
	評価方法 評価割合(%)					評価基準				
	試験		100							
評価方法・	レポー	<b> </b>	0							
評価基準	小テスト		0	定期詞	式験により評価	iする。				
	提出物 0									
	その他	0 0								
履修上の 留意事項	欠席せる	ず、予習	習復習をすること	0						
履修主題・			履修主題			履修四	容			
履修内容	1	生体学	2総論		生物の進化とそのコントロール機構					
	2	動物と 疾患	こしての骨・関節	・筋	骨・関節・筋	骨・関節・筋の機能と疾患の診断・治療				
	3	ニュー	- \ 1- 1. 7 mm	J4L —	脳・神経系機能と疾患の診断・治療					
		ントロール ニューロンによる細胞性コ			脳・神経系機	能と疾患の診断・	治療			
	4		-ロンによる細胞			総能と疾患の診断・ 総能と疾患の診断・				
		ニュー ントロ	コール -ロンによる細胞 コール =ンによる液性コ	性コ	脳・神経系機		治療			
	4	ニュー ントロ ホルモ ロール	コール -ロンによる細胞 コール =ンによる液性コ レ =ンによる液性コ	性コント	脳・神経系機内分泌の機能	総能と疾患の診断・	治療			
	4 5	ニュー ントロール ロール ホルモ ロール 免疫	コール -ロンによる細胞 コール =ンによる液性コ レ =ンによる液性コ	性コントント	脳・神経系機 内分泌の機能 内分泌の機能	総能と疾患の診断・ 治と疾患の診断・治	治療	治療(白血球)		
	5 6	ニンホロホロー 免る免 免	コール - ロンによる細胞 コール = ンによる液性コ レ = ンによる液性コ レ (細胞性・液性)	性コントント によ	脳・神経系機 内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と	総能と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 と疾患の診断・治	治療			
	4 5 6 7	ニンホロホロ免る免る	コール - ロンによる細胞 コール = ンによる液性コレ = ンによる液性コレ (細胞性・液性) ィトロール (細胞性・液性)	性コントント によ	脳・神経系機 内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と	総能と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 アレルギー・膠原	治療 治療 治療 原病の診断・	治療(白血球)		
	4 5 6 7 8	ニンホロホロ免る免る 消化 かんしん こうしょ こうしょ こうしょ こうしょ こうしょ こうしゅ こうしゅ こうしゅ こうしゅ こうしゅ こうしゅ こうしゅ こうしゅ	コール - ロンによる細胞 コール E ンによる液性コレニンによる液性コレール (細胞性・液性) ハトロール (細胞性・液性)	性コントント によ	脳・神経系機 内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と 第化器(消化能	総能と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 アレルギー・膠原	治療 治療 治療 原病の診断・ 原病の診断・ の機能と疾患	治療(白血球)		
	4 5 6 7 8 9	ニンホロホロ免る免る 消化 かんしん こうしょ こうしょ こうしょ こうしょ こうしょ こうしゅ こうしゅ こうしゅ こうしゅ こうしゅ こうしゅ こうしゅ こうしゅ	コール - ロンによる細胞 コール E ンによる液性コレ E ンによる液性コレ (細胞性・液性) ハロール (細胞性・液性) ハトロール (細胞性・液性)	性コントント によ	脳・神経系機 内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と 第化器(消化能	総能と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 アレルギー・膠原 アレルギー・膠原 で、肝・胆・膵) で、肝・胆・膵)	治療 治療 治療 原病の診断・ 原病の診断・ の機能と疾患	治療(白血球)		
	4 5 6 7 8 9	ニンホロホロ免る免る 消 消化の こうしょう おりま かんしん おいま かんしん おいま かんしん おいま かんしん おいま かんしん おいま かんしん かんしん かんしん はいま かんしん はいま かんしん はいま かんしん はいま かんしん はい かんしん はいま はいま はいま かんしん はいま	コール ーロンによる細胞 コール ニンによる液性コレーによる液性コレール (細胞性・液性) /トロール (細胞性・液性) /トロール と素疾患	性コントント によ	脳・神経系機 内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と 消化器(消化を 消化器(消化を	総能と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 アレルギー・膠原 アレルギー・膠原 で、肝・胆・膵) で、肝・胆・膵) で、肝・胆・膵)	治療 治療 治療 原病の診断・ 原病の診断・ の機能と疾患	治療(白血球)		
	4 5 6 7 8 9 10	ニンホロホロ免る免る 消 消 代 代別のようには、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	コール ーロンによる細胞 コール ニンによる液性コレーによる液性コレール (細胞性・液性) /トロール (細胞性・液性) /トロール と素疾患	性コントント によ	脳・神経系機 内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と 消化器(消化 消化器(消化 代謝疾患の診 代謝疾患の診	総能と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 アレルギー・膠原 アレルギー・膠原 で、肝・胆・膵) で、肝・胆・膵) で、肝・胆・膵)	治療 治療 治療 原病の診断・ 原病の診断・ の機能と疾患 の機能と疾	治療(白血球) 引の診断・治療 患の診断・治療		
	4 5 6 7 8 9 10 11	ニンホロホロ免る免る消消代代循ュトルールー疫コ疫コ化化謝謝環	コール - ロンによる細胞 コール E ンによる液性コ による液性コ による液性コ (細胞性・液性) (細胞性・ル (細胞性・ル と を を を を を を を を を を を を を	性コントント によ	脳・神経系機 内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と 消化器(消化 消化器(消化 代謝疾患の診 代謝疾患の診 循環器(呼吸	能能と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 アレルギー・膠原 でアレルギー・膠原 で・肝・胆・膵)の でで・肝・胆・膵)の で、治療 で、治療	治療 治療 治療 原病の診断・ 原病の診断・ の機能と疾患 の機能と疾	治療(白血球) 点の診断・治療 患の診断・治療 患の診断・治療		

授業科目	内部障害学 B	担当教員	鬼原彰		市内の医科大学にて内科学教授 として教育に従事、その後、市内
1又未17日	1,3101位,1000位,1000位,1000位,1000位,1000位,1000位,1000位,1000位,1000位,1000位,1000位,1000位,	実務 経験	有:■	無:□	病院で内科医として勤務。
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

	I								
授業科目	解剖学:	実習 B			担当教員	山内 真帆			
対象年次・学期	2年・	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間	
授業目的		・理学療法の基礎になる骨・筋を主に各種臓器を模型等を観察し実習を行う。さらに解剖された 人体観察を通して、その構造と各器官の連関を理解する。							
到達目標	・骨やが できる。		ごめとする人体臓	器の構	<b>ちき、名称や位</b>	置および構造につ	いて理解し	説明することが	
テキスト・ 参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 筋学ハンドブック 関節学ハンドブック								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポー	<u> </u>	0						
評価基準	小テス	<u> </u>	0	試験に	こより評価する	0			
	提出物		0						
	その他	- 半 / 土	0 2 内						
履修上の 留意事項	1年次に学んだ内容が基礎となるため自ら能動的に調べることを通して主体的に学習すること。 テキスト等を用い予習・復習を行うこと。 解剖実習見学では、敬意を持ち医学を学ぶ学生として真摯に向き合い、かつ積極的に学習に取り 組むこと。								
履修主題・			履修主題			履修!	 内容		
履修内容	1	骨学乳	 実習総論		オリエンテー	 -ション・骨の名科	 尓や位置・構	<u></u> 造について学習	
	2	骨学乳	実習各論①		骨の名称や位	位置・構造について	 C学習		
	3	骨学乳	実習各論②		骨の名称や位	置・構造についる	て学習		
	4	胸腔・	・腹腔臓器①		_ 12 /1 12 /1 13	心臓・肺・肝臓・腎臓・胃・腸など主な臓器の名称や位 置・構造について学習			
	5	胸腔・	・腹腔臓器②		心臓・肺・肝臓・腎臓・胃・腸など主な臓器の名称や位 置・構造について学習				
	6	血管系	Ŕ		主な血管の位置・構造について				
	7	神経系	<u></u> <b>(1)</b>		中枢神経(脳・脊髄)の名称や位置・構造について				
	8	神経系	<u></u>		中枢神経(脳	中枢神経(脳・脊髄)の名称や位置・構造について			
	9	神経系	<u></u>		末梢神経の名	る称や位置・構造に	こついて		
	10	神経系	£2		末梢神経の名	ス称や位置・構造 <i>に</i>	こついて		
	11	筋学乳	実習①		筋の名称や位	位置・構造について	て学習		
	12	筋学乳	実習②		筋の名称や位	位置・構造について	て学習		
	13	筋学乳	実習③		筋の名称や位	位置・構造について	て学習		
	14	筋学乳	<b>建習④</b>		筋の名称や位	位置・構造について	て学習		
	15		学実習見学のオリ ション・準備	エン	人体解剖学実 び準備学習	<b>ミ習見学にあたって</b>	てのオリエン	テーションおよ	
	16	解剖詞	実習見学の準備学 まとめ	習お	解剖された <i>人</i> 理解するなと て整理し理解		解剖実習で学	んだ内容につい	
	17		実習見学の準備学 まとめ	習お	理解するなと て整理し理解		解剖実習で学	んだ内容につい	
	18	解剖乳	<b>実習見学</b>			、体を観察し、構造 スケジュールの詳			
	19	解剖詞	<b>実習見学</b>		解剖された人	、体を観察し、構造	きと各器官の	関係性について	

		理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予 定)
20	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について 理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予 定)
21	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について 理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
22	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について 理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
23	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について 理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)

授業科目	解剖学実習 B	担当教員	山内真帆		道内の病院に理学療法士として
1又未14日	所的于关目 <b>0</b>	実務 経験	有:■	無:□	8年以上勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	内部障害	害理学療	療法学 B	担	旦当教員	横野 裕行	横野 裕行			
対象年次・学期	2 年・後	<b></b>		必修	・選択区分	必修	単位数			
授業形態				授	受業回数	8 回	時間数	15 時間		
授業目的	糖尿病	糖尿病・慢性腎臓病の基礎知識と合併症、運動療法やリスク管理、運動処方について学ぶ。								
到達目標	糖尿病	・慢性腎	腎臓病の運動療法	とリス:	ク管理につい	て説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	病気が見える 糖尿病・代謝・内分泌 Vol 3 第 5 版 最新理学療法学講座 内部障害理学療法学 フィジカルアセスメント完全攻略 Book									
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100							
評価方法・	レポー	レポート		定期試験 100 点満点中 60 点以上を合格とし、本試験で 60 点に満たないものは再試験にて 60 点以上を合格とする。						
評価基準	小テスト		0							
	提出物	提出物 (								
	その他	V D	0	+ - M	11 7 - 11 - 11 -	> 1- 1- 24 > TEL DE L	2 1 21-40	12-1 22		
履修上の 留意事項	ため、 2 年次履	わからた 夏修の内	ない所は質問し早 日部障害学、1 年2	めに解決 欠履修の	決すること。 D解剖学・生理	うちに覚え理解す 里学がベースとなる く意味を理解する	るため復習を			
履修主題・			履修主題			履修内容				
履修内容	1		エンテーション・ こついて	代謝	代謝の復習、代謝障害、肥満について学習する					
	2	糖尿病	<b></b>		糖尿病の病態・検査・治療方法について学習する					
	3	糖尿症	ちの合併症		糖尿病の合併 する	症やその評価方法	、リスク管	理について学習		
	4	糖尿病	ちの治療		糖尿病の食事	幕療法・運動療法σ	)方法につい	て学習する		
	5	行動変	 安容		行動を継続さ	対して、ただ理学 せる手法を理解す	-る	•		
	6	腎臓・	・腎不全 総論		腎臓について て学習する	、慢性腎臓病の症	態・検査・	治療方法につい		
	7	腎不全	との理学療法		慢性腎臓病の評価・理学療法の方法について学習する					
	8	症例核	食討・評価体験		糖尿病・慢性 をする	腎臓病の代表的な	:評価を経験	する。症例検討		

授業科目	内部障害理学療法学 B	担当教員	横野裕行		道内・外の病院で理学療法士とし
IXXIII II	11即件日注1 冰瓜10	実務 経験	有:■	無:□	て8年勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務経験			

授業科目	理学療法	去評価沒	长実習 B		担当教員	武田 祐貴			
対象年次・学期	2 年・道	<b></b> 通年		必但	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態						23 回	時間数	45 時間	
授業目的	1. 患者さんに、検査実施にあたり 2. 各検査が患者さんにかける負荷 る。 3. 各検査手技を的確に実施できる 4. 検査や動作分析の結果を説明・				理解するととも				
到達目標	各種検証	各種検査法および評価法を身につける。							
テキスト・ 参考図書等	新・徒	手筋力机	学 第6版補訂版 検査法 原著第10 学・作業療法学・	) [DV		巻 脳画像			
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・ 評価基準	レポー	-	0	<del>,</del>			, C ellivi I —	<b>△</b> 44.)	
可圆坐牛	サラス 提出物	Γ	0	・正具	別試験 (夫坟・	2回の合算の平均	10割以上で	合格)	
	その他		0						
履修上の 留意事項	1 10			して授	受業に臨むこと	。・授業は触診を行	行いやすく、	動きやすい服装	
履修主題・			履修主題			履修P	内容		
履修内容	1	徒手角	カテスト		筋力を測定する方法の中の徒手筋力テストについて学ぶ				
	2	徒手角	カテスト		筋力を測定する方法の中の徒手筋力テストについて学ぶ				
	3	整形外	科特殊テスト		整形外科特殊テストについて学ぶ				
	4	整形外	<b>ト科特殊テスト</b>		整形外科特殊テストについて学ぶ				
	5	感覚核	食査・疼痛検査		表在・深部・複合感覚の検査法について学ぶ				
	6	感覚核	食査・疼痛検査		表在・深部・複合感覚の検査法について学ぶ				
	7	筋緊引	長テスト		筋緊張の検査法について学ぶ				
	8	筋緊引	長テスト		筋緊張の検査法について学ぶ				
	9	ンスを			バランス検査法、パフォーマンス検査法について学ぶ				
	10	ハフン	√ス検査、パフォ <sup>.</sup> 検査	<b>−</b> ₹	バランス検査法、パフォーマンス検査法について学ぶ				
	11	協調性	<b>生検査</b>		協調性検査法	ほについて学ぶ			
	12	協調性	<b>生検査</b>		協調性検査法	ほについて学ぶ			
	13	片麻痺	車機能検査		Brunnstrom	Stage・片麻痺板	機能検査につ	いて学ぶ	
	14	片麻痺	車機能検査		Brunnstrom	Stage・片麻痺機	機能検査につ	いて学ぶ	
	15	脳神絲			脳神経検査法	ほについて学ぶ			
	16	高次脈	凶機能検査		高次機能検査	胚法について学ぶ			
	17	高次脈	凶機能検査		高次機能検査	胚法について学ぶ			
	18	運動約	- 調検査		運動失調の検	食査法について学ぶ			
	19	運動約	と 調検査		運動失調の検	食査法について学ぶ			
	20	呼吸機	幾能検査		呼吸機能の検	食査法について学ぶ			
	21	呼吸機	幾能検査		呼吸機能の検	食査法について学ぶ			

22	姿勢・動作分析	姿勢・動作の診かたを学ぶ
23	姿勢・動作分析	姿勢・動作の診かたを学ぶ

授業科目	理学療法評価法実習 B	担当教員	有本邦洋		道外医療施設にて 6 年間勤務
1又未17日	在于凉心可	実務 経験	有:■	無:□	<b>旦</b> /下区/泉ル成 に C U 午间 却 分
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	精神障害学 A			担当教員	鵜飼 渉			
対象年次・学期	2 年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数	
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	各種精神疾患の基本症状と治療 ションにおける患者の理解に必						がら講義する	。リハビリテー
到達目標	各種精神疾患の基本症状と治療				ついて理解する	•		
テキスト・ 参考図書等			学・作業療法学 青神医学	専門基	基礎分野 精神	医学 第4版		
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準	隼	
	試験		100					
評価方法・	レポー	<b> </b>	0					
評価基準	小テス	<u> </u>	0	定期記	式験により評価	iする。		
	提出物		0					
	その他		0					
履修上の 留意事項			心理的な視点、 して作業療法の治				精神障害を学	ぶ。精神医学の
履修主題・			履修主題				內容	
履修内容	1		医学総論、成因・ E物学的精神医学					
	2		E学総論、成因・ E物学的精神医学	分 精神医学とは、概念、歴史、3 つの成因について、ストレス脆弱性モデル				
	3		章害、人格障害、 D生物学					
	4		章害、人格障害、 D生物学	人格とけ 行動の暗宝 性の暗宝 気分暗宝の概令 うつ				
	5	統合領	<b></b> - 調症		面での障害、	治療とリハビリ	テーション	予後、社会生活
	6	統合组	<del>上</del> 調症		面での障害、	治療とリハビリ	テーション	予後、社会生活
	7	神経性	<b></b> 挂障害、心身症	神経症の捉え方、恐怖及び不安を中心とするもの強迫を中心とするもの、ストレス関連障害、解離・転換を中心とするもの、身体表現性、その他、定義と概要、心身症としての諸疾患 神経症の捉え方、恐怖及び不安を中心とするもの強迫を中心とするもの、ストレス関連障害、解離・転換を中心とするもの、身体表現性、その他、定義と概要、心身症としての諸疾患				転換を中心とす
	8	神経性	<b></b>					転換を中心とす
	9	アル <sup>:</sup> 存症	コール依存症、薬	物依	群、アルコール依存症のう 睡眠薬・抗る	<sup>2</sup> 供の問題、地域 <sup>、</sup> 安薬、有機溶剤	に生じる精神 ネットワーク  ・覚せい剤・	□障害、アルコー ′、家族の問題、
	10	アル <sup>:</sup> 存症	コール依存症、薬	物依	群、アルコール依存症の引 睡眠薬・抗イ ・コカイン	<sup>2</sup> 供の問題、地域 マ薬、有機溶剤 ノ関連、地域ネッ	に生じる精神 ネットワーク  ・覚せい剤・ トワークとチ	P障害、アルコー 、家族の問題、 大麻・モルヒ ームアプローチ
	11	児童・害	·青年期障害、発	達障	障害、心理的		、特異的発達	得、その他の精神 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	12	児童・	・青年期障害、発	達障	精神・心理系	巻達の特性、行動	及び情緒障害	く その他の精神

	害	障害、心理的発達の障害とは、特異的発達障害、広汎性発 達障害、治療とリハビリテーション
13	心理検査、心理療法、メン タルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検 査、各種心理療法とその実際
14	心理検査、心理療法、メン タルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検 査、各種心理療法とその実際
15	老年期精神医学	心理社会的特性、初老期・老年期の精神障害、リエゾン精神医学とは、リエゾン精神医学が必要となる精神疾患・症状、精神的・心理的問題、精神障害と刑法、民法、精神鑑定、精神の病と社会の関係、学校・職場・家庭のメンタルヘルス

授業科目	精神障害学 A	担当教員	大井達也		市内クリニックにて 2 年間心理士として勤務。市内医科大学付属
		実務 経験	有:■	無:□	病院にて公認心理師として 2 年 以上従事
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	神経障害学 B	担当教員	中村 仁志夫					
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数				
授業形態		授業回数	15 🗆	時間数	30 時間			
授業目的	ヒトの精神・身体活動は全身系として 傷害された組織の機能(機能障害)を ョン計画)が重要である。その基軸と 毎回の授業後に提示される課題に対す する。	回復、補填するには障 なるべき神経学を主なタ	害克服の基本戦略に 実患の特徴を把握す	基づく理念( るとともに、	リハビリテーシ			
到達目標	する。  1) 脳機能の局在と特性について例示し説明できる。 2) 運動神経系と感覚神経系の障害を例示し、説明できる。 3) 脳血管障害の病態を説明できる。 4) 神経変性疾患を例示し、説明できる。 5) 脳腫瘍や神経筋疾患を例示し説明できる。 6) 認知症の病態を理解し、その対応を説明できる。							
テキスト・	・「病気がみえる」第7巻 脳・神経 社)	第2版(メディックメ	ディア					

第4版(医学書院)

参

考

図書

上

の

留

意

事

・「医療系学生のための病理学」 第5版第19章 (講談社)

等			
評	評価方法	評価割合(%)	評価基準
価方	試験	42	
法	レポート	0	毎回のカード(小課題の演習と理解内容の確認及び質問と回答)について
評	小テスト	0	毎回のカート(小味度の演音と理解内存の確認及の負向と回答)に りいて の添削と評価(70 点満点)および
価	提出物	58	定期試験(筆記・50 点満点)の成績とを合わせて全体的評価とする。
基準	その他	0	

・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 「神経内科学」

- 1) 病理学の本(特に第 19 章)も常に脇に置くこと。、2) 解剖学・生理学の知識を常に復習すること。、3) 新聞や雑誌の病気の記事をよく読むこと。
- 4) 主要な英単語については和名だけではなく、英語名による習得に努めること。
- 5) 毎回のカードは各自の努力によって作成し、友達の書いたものを単に引き写す行為は自尊心を培う意味からも極力避けること。

履修	口	履修主題	履修内容
ぎ 題・履修内容	1	医学・医療史、神経学の歴史に おける重要人物の把握 医療倫理の基本	医聖ヒポクラテス、神経学の父シャルコー、脳外科の父クッシング、変性性認知症の父アルツハイマー、遺伝性舞踏病の発見者ハンチントン、看護の母ナイチンゲール、教育者オスラー、X線の父レントゲン、錐体外路系の提唱者平澤興らの業績を知ることにより、医療人存在の理念を学ぶ
	2	神経解剖学(1)中枢神経系の 基本的構成	脳幹の範囲、脳機能の局在、優位半球と劣位半球、日本人の脳の 特徴
	3	神経解剖学(2)脳の働きを支 える機構の実態	錐体路、錐体外路系、感覚路、脳血管系の解剖、髄液循環、血液 脳関門

4	神経解剖学(3)脳から全身臓 器への指令とフィードバック	自律神経系、脊髄の解剖、脳神経症状の見方
5	神経学的診断法(1)生理学的 検査、症候と画像との対比	運動調節・感覚の検査、腱反射など、生理学的検査の種類と対象 となる疾患
6	神経学的診断法(2)画像所 見、髄液所見などの意義	CT と MRI など画像検査、脳波、髄液検査などの基本的知識と応用(てんかんを含む)
7	意識障害・運動麻痺の基本認識 と病態の理解	意識障害の分類、脳死の定義、運動麻痺と錐体路のレベル
8	錐体路と錐体外路系の異常を示 す変性疾患	随意運動と不随意運動、運動ニューロン病(ALS ほか)、パーキンソン症候群
9	運動失調を示す変性疾患	ハンチントン病、脊髄小脳変性症など(多系統萎縮症を含む)の 症候と分類
10	失語症と認知症の分類とその内 容	失語症の分類、認知症の分類と対策、アルツハイマー病など
11	脳血管障害の種々相と対策	脳梗塞(脳血栓と脳塞栓)、脳出血、くも膜下出血、脳動脈瘤な ど
12	脳腫瘍の分類と悪性度および経   過	グリオーマと非グリオーマ(髄膜腫ほか)、母斑症
13	神経難病 (1) 脱髄疾患、脊髄 空洞症などの成因	多発性硬化症、副腎白質ジストロフィー、脊髄空洞症、先天性代 謝異常
14	神経難病(2)神経筋疾患、栄 養障害性病態など	筋ジストロフィー症、重症筋無力症、栄養障害、ミトコンドリア 脳筋症など
15	プリオン病ほか、まとめ	ヤコブ病と BSE、臨床神経学の今後の課題

授業科目	神経障害学 B	担当 教員	中村仁志	夫	新潟大学脳研究所で 7 年間研究 の後、北海道大学で神経病理学に
<b>汉未</b> 付日	₩莊牌古子 D	実務 経験	有:■	無:□	携わり、25 年以上各養成校で教員として勤務
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	法研究法	<u> </u>		担当教員	横野 裕行			
対象年次・学期	2 年・前	前期		必值	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	0 時間	
授業目的		・理学療法において研究とは、臨床で起こる様々な問題を解決するためのプロセスである。 ・本科目では研究の意義を理解すること、統計処理について理解すること。							
到達目標		・研究の意義を理解し、自ら疑問を解決しようと行動できること ・統計の考え方を理解できること							
テキスト・ 参考図書等	なしなし								
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		60						
評価方法・	レポー		0			と定期試験 60 点に	て評定し、	合計 60 点以上	
評価基準	小テス	F	0		各とする。 50 点未満の場 <sup>.</sup>	合は、再試験にて	60 点以上を	合格とする。	
	提出物		40		TO MAKE CHILLY TO				
履修上の 留意事項	, , ,	動的に調		とが必	と 必要な授業です	0			
履修主題•			履修主題			履修内	内容		
履修主題・ 履修内容	1		ニンテーション・	研究	理学療法士が	履修P 『研究する必要性・			
		オリエ 方法① 研究方	ンテーション・	研究			方法を知る		
	1	方法①	ンテーション・ ) が法②	研究	理学療法士が	で研究する必要性・	方法を知る	解する	
	1 2	方法① 研究方	: ンテーション・ ) j法② j法③	研究	理学療法士が信頼性・妥当	、研究する必要性・ 、研究する必要性・	方法を知る 方法を知る /について理		
	1 2 3	方法① 研究方 研究方	ンテーション・ ) が法② が法③ (*1)	研究	理学療法士が 信頼性・妥当 母集団・標本	、研究する必要性・ ・研究する必要性・ 4性、研究デザイン	方法を知る 方法を知る (について理 尺度につい		
	1 2 3 4	方法① 研究方 研究方 研究方	ニンテーション・ ) 方法② 方法③ 性① 性②	研究	理学療法士が 信頼性・妥当 母集団・標本 散らばり、標 正規分布、ノ	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 当性、研究デザイン 、・統計学的推論、	方法を知る 方法を知る /について理 尺度につい E解する	て理解する	
	1 2 3 4 5	方法① 研究方研究方 研究方統計学 統計学	ンテーション・ が法② が法③ 位① 位② 位②	研究	理学療法士が 信頼性・妥当 母集団・標本 散らばり、機 正規分布、/ 理解する	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 4性、研究デザイン 本・統計学的推論、 標準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何	方法を知る 方法を知る /について理 尺度につい 理解する / ンパラメト	て理解する	
	1 2 3 4 5 6	方法① 研究方 研究方 統計学 統計学	ロンテーション・ 可法② 可法③ 位① 位② 位② 位④	研究	理学療法士が 信頼性・妥当 母集団・標本 散らばり、根 正規分する 対応が何か理解	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 4性、研究デザイン 本・統計学的推論、 標準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何	方法を知る 方法を知る について理 尺度につい 関解する ンパラメト 」か、差があ	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7	方法① 研究方字 統計 学統 統計 学统 統計 学	ロンテーション・ 可法② 可法③ 位① 位② 位② 位④	研究	理学療法士が言葉を受ける。 一個では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 4性、研究デザイン 本・統計学的推論、 標準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何 よする	方法を知る 方法を知る / につに で E解する / ンパラメト Tか、	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7	方法(①方研究方字) 統計学 統計学 統計学 統計学 研究計學 統計 計學 統計 計學	ロンテーション・ 方法② 方法③ 位① 位② 位② 位④ 位④ 位④ 位④	研究	理学療法・妥特を関する。 要素 は は が の で の で の で の で の で の で の で の で の で の	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 性、研究デザイン 「、統計学的推論、 標準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何 はする 「、陰性・陽性適中	方法を知る 方法を知る につい 尺度につい 上解する ンパラメト 丁か、 差があ 中率、 偽陽性 ことめる	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7 8	方研究計計計計学	ロンテーション・ 方法② 方法③ 位① 位② 位③ 位④ 位④ 位④ 位④ 位④ 位④ 位④ 位④ 位④ 位④	研究	理学療法・妥特を関する。 関連の はい はい はい がい かい	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 首性、研究デザイン 本・統計学的推論、 標準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何 よする に、陰性・陽性適中 にいことを考え・ま	方法を知る 方法を知る についで につい とが、差があい。 とめる	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	方研 研統統統統統統 新 究 宗計 学学学 学 学 学 字 宗 計 計 学 学 宗 記 計	ンテーション・) 方法② 方法③ 位① 位② 位③ 位④ 位④ 一面を立てよう 一面を立てよう	研究	理学療性 は が の の の の の の の の の の の の の の の の の の	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 4性、研究デザイン 本・統計学的推論、 標準偏差について理 パラメトリック・ノ 対応がないとは何 はする に、陰性・陽性適中 にいことを考え・ま	方法を知る 方法を知る についに にのが、差があり、 でをしますが、 でをしますが、 できる。 できる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	方研究 統統 統統 研研研研研研研研研研研研研研研研研研研研	ンテーション・ 方法② 方法③ 位① 位② 位③ 位③ 位④ 位⑤ 一画を立てよう 一画を立てよう 一画を立てよう	研究	理学 類 集 が と 要 標 と が と 要 標 を が と 要 標 を が が が と 要 は が か が が が が が が が が が が が が が が が が が	「研究する必要性・ 「研究する必要性・ 経性、研究デザイン 本・統計学的推論、 標準偏差について理 対応がないとは何 なする を、陰性・陽性適中 にいことを考え・ま	方法を知る方法を知る方法を知るについに度するプラメトである。	て理解する リックについて る・関係がある	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	方研统統統統研研研研研系統統統研研研研研研研研研	コンテーション・ 方法② 方法③ 位① 位② 位③ 位③ 位③ 一画を立てよう 一画を立てよう 一画を立てよう 一画を立てよう 一画を立てよう		理学 類 集 ら 規解応は度理身 身 身 身 身 身 身 身 身 身 かがががががががががががががががががが	が研究する必要性・ が研究する必要性・ は性、研究デザイン な・統計学的推論、 標準偏差についク・ノ 対応がないとは何いないとは何いないとは何いないとは何いないとは何いないとは何いないとは何いないととを考え・ままった。ことを考え・ままった。ことを考え・ままった。	方法を知る 方法を知る につでにる ア保するラメ 差が で、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	て理解する リックについて る・関係がある	

授業科目		担当教員	横野裕行		道内・外の病院で理学療法士とし
		実務 経験	有:■	無:□	て8年勤務
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	物理療法	物理療法 A			担当教員	吉田智子				
 対象年次・学期	2年.後期		.iv.4i	多・選択区分	必修	単位数				
	2年・12	2年・後期					1 1 371			
授業形態 					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	各種物理療法について、原理・生理学的作用・効果の機序について理解する									
到達目標	   物理療法の種類・原理・目的・効果と適応・リスク管理を理解し説明・記述できること。   疾患を想定して手技を実施できること。									
テキスト・ 参考図書等	最新理学療法学講座 物理療法学 (医歯薬出版株式会社)									
	評価方法 評価割合(%)				評価基準					
	試験		100							
評価方法・	レポー									
評価基準	小テス	<u> </u>		定期記	武験にて評価する。					
	提出物		0							
 履修上の	-( V) [E		0							
留意事項										
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	オリコ 療法総	ロンテーション、特 総論	物理	理   理学療法における物理療法の役割・分類、物理療法の対象   となる病態の整理					
	2	物理療	療法の臨床適応と	評価	物理療法の対	対象となる病態の	)整理、評価方	法の確認		
	3	3 温熱療法				温熱療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌につい て				
	4		寮法各論:ホット/ ペラフィン、赤外/		各種温熱療法の週心・禁忌、実施手順について 					
	5	寒冷療	<b>寮法</b>		寒冷療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌について					
	6 寒冷療法各論 各種寒冷療法の適応・禁忌									
	7	電磁派 短波)	支療法(超短波、 <sup>†</sup>	<u></u>	施手順について					
	8	超音派	皮療法		超音波療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、実施手順について					
	9 電気刺激療法 電気刺激療法の原理、目的、 作用機序、リスク管理につい									
	10	電気刺	引激療法各論		各種電気刺激療法の適応・禁忌、実施手順について					
	11	光線療			光線療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、実施 手順について					
	12	牽引癢	· 療法、圧迫療法		牽引療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、実施 手順について 圧迫療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、実施 手順について					
	13	水治療	 §法		水治療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌について					
14 水治療法各論			各種水治療法の適応・禁忌、実施手順について							
	15	物理療	療法の臨床応用、:	まと	物理療法の臨床応用について					

授業科目	物理療法 A	担当教員	小野直也		市内回復期病院で理学療法士と
	13-218/12	実務 経験	有:■	無:□	して5年勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法評価法 II A			担当教員	武田 祐貴					
対象年次・学期	2年・通年		必作	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態				授業回数	30 💷	時間数	60 時間			
授業目的	1. 解剖学・運動学で学習した内容と評価の意義・方法を関連付けて考えることができる。 2. 患者様に検査を実施するにあたり、必要な説明と禁忌動作や注意点等のリスク管理ができる。 3. 1つの検査結果において異常や制限の原因を明らかにできる(検査から考えられる問題)。 4. 複数の検査項目から考えられる問題点を説明・記述できる(統合と解釈)。									
到達目標	各種検査法を理解し、統合と解釈ができる。									
テキスト・ 参考図書等	理学療法評価学 第6版補訂版 新・徒手筋力検査法 原著第10版 [DVD 付] 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像									
	評価方法 評価割合(%)					評価基準				
	試験 100									
評価方法· 評価基準	レポート 0			・定制	明試験 (筆記:	前期中間・後期中	間・後期の	3 回の合算が		
計圖基準	小テス	<u> </u>			以上で合格)	155745   145   154745	1.3			
	提出物		0							
履修上の 留意事項	解剖・	解剖・生理・運動学の復習をして授業に臨むこと。授業は触診を行いやすく、動きやすい服装を 用意すること。								
履修主題・			履修主題		履修内容					
履修内容	1	1年次内容の復習			形態計測、ROM-T「上肢」「下肢」					
	2	1年次内容の復習			形態計測、ROM-T「上肢」「下肢」					
	3 評価の意義				end feel、抵抗等尺運動の意義、筋力テストについて学 ぶ					
	4	4評価の意義5徒手筋力テスト6徒手筋力テスト7徒手筋力テスト								
	5				徒手筋力テストについて学ぶ					
	6				徒手筋力テストについて学ぶ					
	7				徒手筋力テストについて学ぶ					
	8 徒手筋力テスト 9 整形外科特殊テスト 10 整形外科特殊テスト 11 感覚検査・疼痛検査 12 感覚検査・疼痛検査 13 深部腱反射テスト 14 深部腱反射テスト				徒手筋力テストについて学ぶ					
					整形外科特殊テストの意義とその方法について学ぶ					
					整形外科特殊テストの意義とその方法について学ぶ					
				・疼痛検査		表在・深部・複合感覚・疼痛の検査法について学ぶ				
				感覚検査・疼痛検査		表在・深部・複合感覚・疼痛の検査法について学ぶ				
					深部腱反射・病的反射の検査法について学ぶ					
					深部腱反射・病的反射の検査法について学ぶ					
	15	15 筋緊張テスト		筋緊張の検査法について学ぶ						
16 筋緊張テスト			筋緊張の検査法について学ぶ							
	バランス検査、パフォーマ ンス検査		バランス検査法、パフォーマンス検査法について学ぶ							
	18 パランス検査、パフォーマンス検査					バランス検査法、パフォーマンス検査法について学ぶ				
	19 協調性検査 20 協調性検査			失調について学ぶ						
					失調について学ぶ					
21 片麻痺の運動機能			Brunnstrom Stage・片麻痺機能検査について学ぶ							
	22	片麻痺の運動機能			Brunnstrom Stage・片麻痺機能検査について学ぶ					

23	脳神経・高次脳機能検査、 呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
24	脳神経・高次脳機能検査、 呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
25	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、 患者像をつかむことについて学ぶ
26	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、 患者像をつかむことについて学ぶ
27	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
28	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
29	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
30	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う

授業科目	理学療法評価法    A	担当教員	他		
汉朱竹口	在于凉瓜町  Ш瓜町八	実務 経験	有:■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	日常生活	活活動詞	実習 A		担当教員	竹中 謙将				
対象年次・学期	2 年・道	・通年 必			多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間		
授業目的		受業を通して、障がい像を明確に捉え、その人にあった日常生活活動方法を考える。さらに安全 こ介助・訓練方法を実践する。また、様々な ADL 評価法を学び、演習する。								
到達目標	②障が	)日常生活活動を安全で円滑に行う方法を実施できる。 )障がいを持つ人の日常生活活動方法を説明できる。 )ADL 評価とその方法、定義について説明と実施ができる。								
テキスト・ 参考図書等			ュアルテキスト 育3版 ADL そ <i>0</i>		から応用					
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100	<del></del> ₩0 /	+ <del>/</del> = ¬ = + F ← 0.0	上に中共手除 20 -	ヒのヘミースミエ			
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス		0	験で(	60 点に満たな	点と実技試験 20 g いものは再試験に		価を行い、本訊 筆記試験 100 点		
HI IM E I	提出物	<u> </u>	0		中 60 点以上を 計験け筆記試験	合格とする。 3 100 点満点で評価	mを行う			
	その他		0	区为巾			щ с 11 ) °			
履修上の 留意事項		作がなる	されているか、ま			要になります。普 変化によってどう				
履修主題・			履修主題		履修内容					
履修内容	1	オリコ	ニンテーション							
	2	動作網	東習の基本		ADL 訓練、基本動作訓練を進める上で必要な運動を活用し効果的な練習・指導方法について学ぶ					
	3	ポジシ	ノョニング		ポジショニング(良肢位)についてその方法を学ぶ					
	4	ADL	評価法		ADL 評価法について学ぶ					
	5	ADL	評価法		ADL 評価法について学ぶ					
	6	動作0	D分析		基本動作を分析する					
	7	動作0	D分析		基本動作を分析する					
	8	関節!	ノウマチの ADL		関節リウマチの ADL について学ぶ					
	9	変形性	生関節症の ADL		変形性関節症の ADL について学ぶ					
	10		骨折の ADL		下肢骨折の ADL について学ぶ					
	11	移動補	捕助具の選択、操 て	作に	移動補助具の選択、操作について学ぶ					
	12	身のま	まわり動作練習		起居・移動動作、身のまわり動作の意味と動作方法、訓練 方法について学ぶ					
	13	複合重	<b>か作練習のポイン</b>	٢		習方法について	さぶ			
	14	神経変	変性疾患の ADL		神経変性疾患	の ADL について	学ぶ			
	15	神経変	変性疾患の ADL		神経変性疾患	見の ADL について	学ぶ			
	16	脳卒中	中片麻痺の ADL		脳卒中片麻痺	pの ADL について	学ぶ			
	17	脳卒中片麻痺の ADL			脳卒中片麻痺	pの ADL について	学ぶ			
	18	脳卒中	中片麻痺の ADL		脳卒中片麻痺	pの ADL について	 学ぶ			
	19	脳卒中	中片麻痺の ADL		脳卒中片麻痺の ADL について学ぶ					
	20	脊髄排	員傷の ADL		脊髄損傷の A	ADL について学ぶ				
	21	脊髄排	員傷の ADL		脊髄損傷の A	ADL について学ぶ				
	22	脊髄排	員傷の ADL		脊髄損傷の 月	ADL について学ぶ				

授業科目	日常生活活動実習 A	担当 教員	吉田香織		道内の総合病院に理学療法士と
汉朱竹白	口市工心心勤大日內	実務 経験	有:■	無:□	して10年以上勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	運動器	障害学 /	A		担当教員	元木 純					
 対象年次・学期	2 年・ji	<b>通</b> 年		必作	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的		PT・OT にとって安全で効果的な治療をするために必要不可欠な、疫学・発症メカニズム・代表 的な検査・治療法を運動器疾患の総論および各論を通じて学習し理解する。									
到達目標	につい	て説明 <sup>・</sup> として、	・記述ができる。 各関節に代表的			法・外傷学を学習 ・発症メカニズム					
テキスト・ 参考図書等	標準整	形外科等	学 第 14 版								
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		100								
評価方法・	レポー	<b></b>	0								
評価基準	小テスト		評価基準 小テスト 0 定期試験により評価する。		スト 0 定期試験により評価する。				定期試験により評価する。		
	提出物		0								
	その他	その他 0									
履修上の 留意事項	積極的(	に質問す	すること。								
履修主題・	□		履修主題			履修P	內容				
履修内容	1	整形外	<b>卜</b> 科総論		診断・治療総論						
	2	疾患怨	<b></b>		外傷総論・軟部組織損傷(末梢神経損傷・脱臼・靭帯損傷)						
	3	疾患疫	<b></b>		骨折						
	4	疾患疫	失患総論		軟部組織・骨	・関節の感染症					
	5	疾患疫	失患総論		四肢循環障害の診察・診断						
	6	疾患疫	<b></b>		代謝性骨疾患	・骨腫瘍					
	7	疾患疫	<b></b>		関節リウマチ						
	8	疾患疫	<b></b>		変形性関節症						
	9	疾患名			足部・足関節	5疾患					
	10	疾患名	<b>S</b> 論		膝関節疾患						
	11	疾患名	<b>S</b> 論		股関節疾患						
	12	疾患名	<b>S</b> 論		脊椎・胸郭疼						
	13	疾患名	<b>子論</b>		上肢疾患①	(肩関節疾患)					
	14	疾患名	<b>S</b> 論		上肢疾患②	(肘・手関節疾患)					
	15	疾患名	<b></b> 		上肢疾患③	(上肢のスポーツ障	重害)				

投業科目   20世   大阪   10世   10						
大学   1	授業科目	運動器障害学 A	担当教員	元木純		
接業形態			実務 経験	有:■	無:□	士として 18 年前勤務
在	対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
教 実経 担教 実	授業形態		実務 経験			
経験 担当員 実務験 担当員 実務験 担当員 実務験 担当員 実務験 担当員 実務験 担当員 養務験						
数員 実務缺						
経験 担教 実験 担教 実経 担教 実						
教員 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 担当員 実務 地名 大子 大子 大子 大子 大子 大子 大子 大子 大子 大子						
経験       担教 実務       担教 実経						
教員 実務 担教 実務 担教 実経 担教 実経 担教 実経 担教 実経 担教 実経 担教 実務 担教 実務 担教 実務						
経験       担對員 実際       担對員 実際       担對員 実際       担對員 実際       担對員 実際						
教員       実務       担当員       実験       担当者       実験       担当員       実務験       担当員       実務       担当員       実務						
経験       担当教       支務       担当教       支務       担当教       支務       担当教       支務       担当教員       支務						
教員       実務       担当       教員       実務       担当       教員       実務			実務 経験			
経験 担当教員 実務 経験 担当教員 実務 経験 担当 教員						
教員       実務       経験       担当       教員       実務       経験       担当       教員       実務			実務 経験			
経験       担当教員       実務経験       担当教員       実務			担当教員			
教員       実務       経験       担当       教員       実務			実務経験			
経験       担当       教員       実務			担当教員			
教員			実務経験			
実務   経験			担当教員			
			実務経験			

授業科目	臨床運動学 A				担当教員	浜本 浩一				
対象年次・学期	2年・通年			必值	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態						23 🗉	時間数	45 時間		
授業目的	分析が 歩行の 特徴を[	・理学療法評価における動作観察・分析の位置づけを理解し、健常者や患者の姿勢、動作観察・分析ができる。①姿勢と動作の観察に必要な用語を使うことができる。②基本姿勢、基本動作、歩行の観察を記述することができる。③基本姿勢、基本動作、歩行について観察により発見した特徴を図示することができる。④基本姿勢、基本動作、歩行の観察からとその特徴や異常を発見し、その要因となる機能障害を導き出すことができる。								
到達目標	正常な	正常な基本動作のメカニズムを理解し、動作分析を身につける。								
テキスト・ 参考図書等	動作分析 観察に、		末活用講座 亍分析							
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	•	0	前期.	, 後期完期試験	(筆記)、前期小	テフト 谷間	日ポスター発表		
評価基準	小テス	<u> </u>	10		として評価する		ノハ 「、   図州	カバスク 光衣		
	提出物		10							
 履修上の	1 1	- o th		TIII /17		~~# <u></u>	<b>V□</b> ±. 1. > .=			
留意事項	_	での実育 		の埋所	Fには个可欠な 	ので集中して取り 		,		
履修主題・	□		履修主題		履修内容 臨床運動学とは 身体運動の分析方法(運動・動作・行					
履修内容	1	動作分	分析の基礎 1		四外建划于こは 3件建划のカ州カム (建新・助下・1) 為)					
ļ.	2	動作分	分析の基礎 2		日常生活活動	日常生活活動と基本動作の関係				
	3	動作額	見察・動作分析		身の回り動作	■の細分化				
	4	動作分	分析の基礎 3		基本動作の評	呼価方法 (動作・過	方法(動作・運動分析)			
	5	姿勢衝	見察・分析		臥位・座位・立位、姿勢観察・分析の実際					
	6	バイス	ナメカニクス 1		体重心の求め方、身体に働く力(重力、床反力、摩擦力、 外力)					
	7	バイス	ナメカニクス 2		力の合成と分解、てこ、関節モーメントと筋活動					
	8	グルー	-プワーク1		授業方法の説明					
	9	グルー	-プワーク2・3			)ポスター発表				
	10	グルー	-プワーク2・3			)ポスター発表				
	11	グルー	-プワーク4・5	• 6	起き上がり動作 起き上がり動作のポスター発表					
	12	グル-	-プワーク4・5	• 6	起き上がり動作 起き上がり動作のポスター発表					
	13	グルー	-プワーク4・5	• 6		- · · b作のポスター発表	Ž			
	14	グル-	-プワーク7・8	• 9	立ち上がり動 立ち上がり動	が作 が作のポスター発表	₹			
	15	グルー	-プワーク7・8	• 9	立ち上がり動 立ち上がり動	h作 h作のポスター発表				
	16	グル-	-プワーク7・8	• 9	立ち上がり動 立ち上がり動	カ作 カ作のポスター発表	Ē			
	17	グル-	-プワーク10・	1 1	<u>エッエ:                                   </u>		·			
	18	グルー	-プワーク10・	1 1	歩行					
	19	グル-	-プワーク12		歩行のポスター発表					

20	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
21	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
22	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行
23	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行

授業科目	臨床運動学 A	担当教員	浜本浩一		道内外の総合病院等で理学療法
	PHRE IVE 1903 J	実務 経験	有:■	無:□	士として 16 年間勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	神経障	害理学療	療法学 B		担当教員	山内 真帆				
対象年次・学期	2年・	<b></b>		必值	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態						15 🗆	時間数	30 時間		
授業目的	ける病類	血管障害や脊髄損傷等、理学療法の主要対象疾患についての知識の統合をはかる。各疾患におる病態像、障害像の理解を深め、それに応じた理学療法評価項目の選択と目標設定、治療計画 案までの知識・技術の統合をはかることを目的とする。								
到達目標		1管障害、脊髄損傷、神経筋疾患の病態、評価について説明できる。 免療法治療の流れについて説明できる。								
テキスト・ 参考図書等	病気が. 標準理 脊髄損	見える 学療法等 傷理学療	学専門分野 神経 Vol.7 脳・神経 学・作業療法学・ 療法マニュアル第	<b>第</b> 言語聴	2 版	巻 脳画像				
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験	1	100							
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス	-	0	<b>⇔</b> #□=-	式験により評価	·+ 7				
可顺坐十	提出物	Γ	0	<b>止</b> 期司	八映により計価	19 විං				
	その他		0							
履修上の 留意事項	実践的	める。基		-		さないでその場で と重複する話が多				
履修主題・			履修主題			履修内	內容			
履修内容	1	脳血管	<b>萱障害</b>		脳血管障害・ 管障害の理学	総論、脳血管障害 等法 評価、脳	子の合併症と 4血管障害の			
	2	脳血管	管障害		脳血管障害・ 管障害の理学	総論、脳血管障害 <sup>2</sup> 療法 評価、脳	Fの合併症と 6血管障害の			
	3	脳血管	<b>管障害</b>		脳血管障害・ 管障害の理学	総論、脳血管障害 基療法 評価、脳	Fの合併症と 6血管障害の			
	4	脳血管	<b>管障害</b>		脳血管障害・ 管障害の理学	総論、脳血管障害 等法 評価、脳	子の合併症と 6血管障害の			
	5	脳血管	<b>管障害</b>		脳血管障害・ 管障害の理学	<b>学療法 評価、脳</b>	血管障害の			
	6	脳血管	管障害		管障害の理学		血管障害の	理学療法		
	7	脊髄排	員傷		損傷の理学療	いての総論、脊髄 養法評価、脊髄損傷	らい 理学療法			
	8	脊髄掛	員傷		損傷の理学療	いての総論、脊髄 逐法評価、脊髄損傷	の理学療法			
	9	脊髄排	員傷		損傷の理学療	いての総論、脊髄 療法評価、脊髄損傷	らい 理学療法			
	10	脊髄排	員傷		損傷の理学療	いての総論、脊髄 を法評価、脊髄損傷	らい 理学療法			
	11	脊髄排	脊髄損傷脊髄損傷についての総論、脊髄損傷の合併症・予後、 損傷の理学療法評価、脊髄損傷の理学療法							
	12	神経業	推病	パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症・ 多発性硬化症の総論・評価・理学療法						
	13	神経難	推病		多発性硬化症	/病・脊髄小脳変性 の総論・評価・理	学療法			
	14	神経難	推病		多発性硬化症	/病・脊髄小脳変性 の総論・評価・理	学療法			
	15	神経難	推病			∕病・脊髄小脳変性 ■の総論・評価・理		性側索硬化症・		

授業科目	神経障害理学療法学 B	担当教員	吉田香織		道内の総合病院に理学療法士と
<b>汉</b> 耒付日	神柱牌古娃子原本子 D	実務 経験	有:■	無:□	して 10 年以上勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床実	習 I A			担当教員	横野	裕行			
対象年次・学期	2年・後	<b></b>		必值	多・選択区分	必修		単位数		
授業形態					授業回数	90 🗉		時間数	180 時間	
授業目的	る評価の導者のして患	の進め7 下、見 者さん <i>の</i>	「専門科目で学ん」 「を学習する。各 学・模倣・実施す ロニーズやゴール	種疾患 ること を考察	の症例に即し が重要な課題 としていく。	て、各	種の情報収	集及び検査	・測定手順を指	
到達目標	b) 各疾 c) 検査	患に合	の情報を得ること わせて検査・測算 記録し、自ら調べ 当性を検討するこ	定を実だ で得る質	施できるように 範囲内で異常 <i>の</i>	-		果の関連性を	考えることで、	
テキスト・ 参考図書等	臨床実	習の手引	き							
	評価に	方法	評価割合(%)				評価基準			
	試験		0							
評価方法・	レポー	<b></b>	0	r/= c+ c+	1771 HVX +V A =T	:/ <del></del> 1.	h33±0 + ∧		<b>ま 古 南 ナ /</b> ゲ リ	
評価基準	小テス	<b> </b>	()		床実習指導者の評価と、実習報告会における発表内容を併せ、 合的に評価する。					
	提出物		20							
	その他		80							
履修上の 留意事項			丁ってから実習に 〈対象者の気持ち			持って	実習を行っ	てください。		
			履修主題				履修F	内容		
履修主題・ 履修内容	1		l-5 回】 《習前評価						接するに当た えていることを	
	2		6-88 回】 ā床実習		各実習施設に赴き臨床教育者の指示のもと、病歴などに関する医学的情報を収集したり、関節可動域や徒手筋カテストなどの検査・測定を体験(見学・模倣・実践)し、評価結果の妥当性や根拠のある評価に務める大切さを学習する。					
	3		89-90 回】 ミ習後評価						会の内容や提出 考に総合的に判	

授業科目	臨床実習IA	担当教員	山内真帆		道内の病院で理学療法士として
汉朱竹百	шилхатл	実務 経験	有:■	無:□	8年以上勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床心	理学 A			担当教員	久原 奈緒子				
対象年次・学期	2 年・前	前期		必何	多・選択区分	必須	単位数			
授業形態					授業回数	15 🗉	時間数	30 時間		
授業目的	理療法	や心理証	や心理査定、事例 査定の基本的な知 む方法について身	識を修	§得すること、	また精神疾患、	発達障害の方々			
到達目標	概要を	知り、対	氐限必要であろう 対象者からの情報 いても身につける	収集の	方法、また体	験を通して自己				
テキスト・ 参考図書等	教科書	よくオ	つかる臨床心理学	!						
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準	<u></u>			
	試験		80							
評価方法・ 評価基準	レポー		0	ċ#=	+F <b>←</b> 000/ +⊟ i	Lutta 2007.1 = = = = = = = = = = = = = = = = = =	T.   + -+			
可圆坐十	ポテス 提出物	Γ	20	<b>正</b> 期記	丸殃 δU%、掟ί	出物 20%にて評価	□しより。			
	その他		0							
履修上の 留意事項	必ずし:	も教科	書に従って講義を	進める	るとは限りませ	んが、事前に一	売下さい。			
履修主題・			履修主題			履修	内容			
履修内容	1		○理学の基礎理論 ノョン	、ア	各理論の概要、アサーション体験					
	2	発達隊	章害①		注意欠陥・多動性障害、行為障害、学習障害					
	3	発達隊	章害②		自閉性障害、チック症、精神遅滞、知的障害					
	4	不安と	と身体関連障害①		気分障害(うつ病・双極性感情障害)、睡眠障害					
	5	不安と	と身体関連障害②		薬物・アルコ	コール依存症、摂	食障害			
	6	不安	:身体関連障害③	1	ストレス関連 性障害)	車障害(恐怖症、	パニック障害	、PTSD、強迫		
	7	不安 8	·身体関連障害④		人格障害、紛	· 合失調症				
	8	アセス	スメント①		心理検査法	(質問紙法、投影	法、作業検査	法)の概要他		
	9	アセス	スメント②		初回面接(1	(ンテーク面接)	の概要他			
	10	心理療	療法①		支持的精神療	憲法、表現療法				
	11	心理療	療法②		訓練療法(自	目律訓練法)、行動	加療法(系統的	勺脱感作法)		
	12	心理療	<b>寮法③</b>		洞察療法(来	天談者中心療法)、	認知療法			
	13	心理	<b>寮法④</b>			<b>上(内観療法)</b>				
	14	心理經	療法⑤		芸術療法(指 ュ療法)	苗画療法、サイコ	ドラマ、音楽 	療法、コラージ		
	15	心理經	<b>寮法⑥</b>		ソーシャルス	スキルトレーニン				

授業科目	臨床心理学 A	担当教員	久原奈緒	子	道内スクールカウンセラーとし
1又未行口	<b>咖</b> 水心生于 A	実務 経験	有:■	無:□	て 10 年の実務経験あり
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床心	理学 B			担当教員	久原 奈緒子				
対象年次・学期	2 年・前	前期		必作	多・選択区分	必須	単位数			
授業形態					授業回数	15 🗓	時間数	30 時間		
授業目的	理療法	や心理証	査定の基本的な知	識を修	§得すること、	発達障害についまた精神疾患、多ずることを目的で	発達障害の方々			
到達目標	概要を発	知り、対		収集の	方法、また体	の症状や特性、対験を通して自己を 目標とします。				
テキスト・ 参考図書等	教科書	よくオ	つかる臨床心理学							
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準	<b>崖</b>			
	試験	_	80							
評価方法・ 評価基準	レポー		0	ċ#=	+F <b>←</b> 000/ +⊟ i	Lutta 200/1===	T.I. + -+			
可脚坐十	ホテス 提出物	Γ	20	正别記	玌殃 δU%、掟ί	出物 20%にて評価	□しより。			
	その他		0							
履修上の 留意事項	必ずし:	も教科	- 書に従って講義を	進める	らとは限りませ	んが、事前に一詞	売下さい。			
履修主題・			履修主題			履修	内容			
履修内容	1		心理学の基礎理論 ノョン	、ア	各理論の概要	更、アサーション	体験			
	2	発達隊	章害①		注意欠陥・多動性障害、行為障害、学習障害					
	3	発達隊	章害②		自閉性障害、チック症、精神遅滞、知的障害					
	4	不安	全身体関連障害①	ı	気分障害(うつ病・双極性感情障害)、睡眠障害					
	5	不安 8	:身体関連障害②		薬物・アルコ	コール依存症、摂	食障害			
	6	不安 8	と身体関連障害③		ストレス関連 性障害)	車障害(恐怖症、	パニック障害	、PTSD、強迫		
	7	不安と	と身体関連障害④		人格障害、紛	充合失調症				
	8	アセス	スメント①		心理検査法	(質問紙法、投影	法、作業検査	法)の概要他		
	9	アセス	スメント②		初回面接(1	(ンテーク面接)	の概要他			
	10	心理療	療法①		支持的精神療	法、表現療法				
	11	心理療	療法②		訓練療法(自	1律訓練法)、行動	协療法(系統的	勺脱感作法)		
	12	心理療	<b>寮法③</b>		洞察療法(茅	天談者中心療法)、	認知療法			
	13	心理療	<b>寮法④</b>			<b>法(内観療法)</b>				
	14	心理療	療法⑤		芸術療法(指 ュ療法)	苗画療法、サイコ	ドラマ、音楽	療法、コラージ		
	15	心理療	<b>寮法⑥</b>		ソーシャルス	スキルトレーニン	グ			

授業科目	   臨床心理学 B	担当教員	久原奈緒·	子	道内スクールカウンセラーとし
汉朱竹白	<b>加水心生于 D</b>	実務 経験	有:■	無:□	て 10 年の実務経験あり
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	情報科	学 II B			担当教員	笹谷 純代				
対象年次・学期	2 年・前	前期		必作	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	PowerF 報やデ	Point の 一夕の欠	操作方法を身につ	つける	ことを目的とす	ラシーと Microsf する。また、社会st 用するための知識	生活において	必要となる、情		
到達目標	③Powe	erPoint	てレポートやポス を使ってスライ   でのモラルや責任	が作	成できる。	②Excel を値 え方を説明できる		が作成できる。		
テキスト・ 参考図書等	30 時間 Windov		ミック 情報リテ 対応	<del>`</del> ラシ・	- Office2016	ŝ				
		価方法 評価割合(%) 評価基準								
	試験		50							
評価方法・ 評価基準	レポー		0	・各詞	式験の平均点 5	0%				
可順坐牛	サラス 提出物	Γ	50	・提b	出物 50%					
	その他		0							
履修上の 留意事項	①授業(	①授業は PC 室で行うので時間までに着席していること。②説明と実習(実習がメイン)③テキストは1年時のものを使用する。								
履修主題・	□		履修主題			覆修P				
履修内容	1		プューターとイン 、(序章)	ター	ネット社会で	ごのトラブル、回過	達するために			
	2		との応用(第2章	付	ビジネス文書	まで 基礎知識				
	3	文書化	との応用(第2章	7)	長文作成をサ	ナポートする				
	4	文書化	との応用(プリン	<b>F</b> )	住所録作成、	差し込み印刷、は	はがき印刷			
	5	文書化	との応用(プリン	١)	名刺作成、宛	刺作成、宛名ラベル作成				
	6	文書化	<b>と</b> の応用(プリン	<b>F</b> )	ポスター作製、					
	7	表計算章 5)	算ソフトの活用(	第3	いろいろな数	対式(絶対参照、し	ゝろいろな関	数)		
	8	表計算章 7)	算ソフトの活用(	第3	データベース	スの利用(並べ替 <i>え</i>	た、データの	抽出)		
	9	表計算 章 8)	算ソフトの活用(	第3	Excel のデー	タを Word 文書に	貼り付ける			
	10	表計算	算ソフトの活用 (	プリ	ピボットテー	-ブル				
	11	ント)	算ソフトの活用(		さまざまな集	 [計表				
	12	ント)	算ソフトの活用(		さまざまな集	 [計表				
	13	の活用	ジンテーションソ 月(第 4 章 7)		スライドショ	ーをサポートする	機能			
	14	I	ヹンテーションソ 月(第4章 付録)	フト	プレゼンテー	-ションの基礎技能				
	15	まとぬ	5		総合演習、情	<b>報モラル</b>				

授業科目	情報科学ⅡB	担当教員	笹谷純代		IT 講習、雇用促進等のインストラクターとして 20 年以上にわた
	וואומו	実務 経験	有:■	無:□	り従事
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	法評価沒	去IIB		担当教員	武田 祐貴					
対象年次・学期	2年・減	通年		必作	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間			
授業目的	2. 患者 3. 1つ	ずさんに の検査	検査実施にあた 結果において異常	り、必常や制度	要な説明と禁忌 限の原因を明ら	方法を関連付けてき 忌動作や注意点等の かにできる(検査 己述できる(統合の	。 のリスク管理 蚤から考えら	!ができる。			
到達目標	各種検	査法を現	里解し、統合と解	釈がて	ぎきる。						
テキスト・ 参考図書等	新・徒	理学療法評価学 第6版補訂版 新・徒手筋力検査法 原著第10版 [DVD 付] 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像									
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		100								
評価方法・ 評価基準	レポー		0	・定期	用試験(筆記:	中間・前期・後期	3回の合算	の 60%以上で合			
計圖基準	小テス	<u> </u>	0	格)	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	11.5 15.775 15.77					
	提出物		0								
履修上の 留意事項	1 10	生理・運動学の復習をして授業に臨むこと。授業は触診を行いやすく、動きやすい									
履修主題・	回		履修主題			履修区	内容				
履修内容	1	1年次	て内容の復習		形態計測、R	OM-T「上肢」「	下肢」				
	2	1年次	て内容の復習		形態計測、R	OM-T「上肢」「	下肢」				
	3	評価0	D意義		end feel、	抵抗等尺運動の意	義、筋力テス	ストについて学			
	4	評価の	D意義								
	5	徒手角	5カテスト		徒手筋力テス	ストについて学ぶ					
	6	徒手角	<b>労力テスト</b>		徒手筋力テストについて学ぶ						
	7	徒手角	<b>労力テスト</b>		徒手筋力テストについて学ぶ						
	8	徒手角	<b>労力テスト</b>		徒手筋力テストについて学ぶ						
	9	整形外	科特殊テスト		整形外科特殊テストの意義とその方法について学ぶ						
	10	整形外	科特殊テスト		整形外科特殊	トストの意義とる	その方法につ	いて学ぶ			
	11	感覚核	食査・疼痛検査		表在・深部・	複合感覚・疼痛の	)検査法につ	いて学ぶ			
	12	感覚物	食査・疼痛検査		表在・深部・	複合感覚・疼痛の	検査法につ	いて学ぶ			
	13	深部脈	建反射テスト		深部腱反射・	病的反射の検査法	- 生について学	٠٤٠			
	14	深部脈	建反射テスト		深部腱反射・	病的反射の検査法	<b>生について学</b>	٠٤٠			
	15	筋緊引	長テスト		筋緊張の検査	胚法について学ぶ					
	16		長テスト		筋緊張の検査	胚法について学ぶ					
	17	ンスを			バランス検査法、パフォーマンス検査法について学ぶ						
	18	バラン	ノス検査、パフォ 検査	-	バランス検査	Ē法、パフォーマン	/ス検査法に	ついて学ぶ			
	19		生検査		失調について学ぶ						
	20	協調性	生検査		失調について	(学ぶ					
	21	片麻痺	車の運動機能		Brunnstrom	Stage・片麻痺板		いて学ぶ			
	22	片麻狐	車の運動機能		Brunnstrom	Stage・片麻痺板	幾能検査につ	いて学ぶ			

23	脳神経・高次脳機能検査、 呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
24	脳神経・高次脳機能検査、 呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
25	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、 患者像をつかむことについて学ぶ
26	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、 患者像をつかむことについて学ぶ
27	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
28	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
29	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
30	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う

授業科目	理学療法評価法ⅡB	担当教員	他		
IXXII I	在1 冰风川画风 11 0	実務 経験	有:■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	運動学	実習 A			担当教員	横野 裕行					
対象年次・学期	2 年・近	<b></b> 通年		必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	23 🗖	時間数	45 時間			
授業目的	① 実習 ② 実習 深い分	『を通し 『器具や 折力、≉ 『の一連	て観察・測定・ 実験装置の取り 考察力を身に付け	分析の 扱いを ける。	各段階を体験し 知るとともに、	象を捉え理解する 、理解を深める できる限り詳細 こついて、標準的	。  な記録、鋭察	そを心掛け、より			
到達目標						ついて説明できる ・記載をすること					
テキスト・ 参考図書等	基礎運動	基礎運動学(第6版 補訂)									
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準	É				
	試験		0								
評価方法・ 評価基準	レポー		100	レポ-	- ト点 100%						
計価基準	小テス	<u> </u>	0			回のオリエンテ	ーションで説	明する			
	提出物		0								
履修上の 留意事項	レポー		  エンテーション	~  ーションを参考にして、充実した内容のものを作成すること。探究心を める。また、レポート提出は期限を厳守すること。							
履修主題・			履修主題			履修	内容				
履修内容	1	オリコ	<b>ニンテーション</b>		授業オリエン	ケーション、レ	ポート課題の	書き方			
	2	オリコ	ロンテーション		授業オリエンテーション、レポート課題の書き方						
	3	実習1	1		最大下酸素摂取量の推定(心拍数)						
	4	実習1	L		最大下酸素摂取量の推定(心拍数)						
	5	実習1	[		最大下酸素摂取量の推定(心拍数)						
	6	実習1	[		最大下酸素摂取量の推定(心拍数)						
	7	実習2	2		重心位置推定	3					
	8	実習2	2		重心位置推定	Ē					
	9	実習2	2		重心位置推定	=					
	10	実習2	2		重心位置推定	=					
	11	実習3	3		筋力測定						
	12	実習3	3		筋力測定						
	13	実習3	3		筋力測定						
	14	実習3	3		筋力測定						
	15	実習4	1		歩行分析						
	16	実習4	1		歩行分析						
	17	実習4	1		歩行分析						
	18	実習4	1		歩行分析						
	19	実習5	)		嫌気性代謝閾	園値の推定(呼気	ガス)				
	20	実習5	)		嫌気性代謝閾	園値の推定(呼気	ガス)				
	21	実習5	)		嫌気性代謝闘	園値の推定(呼気	ガス)				

22	実習 5	嫌気性代謝閾値の推定(呼気ガス)
23	まとめ、フィードバック	まとめと復習

授業科目	運動学実習 A	担当教員	山田里見		道内病院にて作業療法士として
		実務 経験	有:■	無:□	6年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	内部障害	害学 A	<u> </u>		担当教員	鬼原 彰			
対象年次・学期	2 年・道	通年		必作	冬・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	疫系が	どのよう び、それ	うにして細胞レベ 1をリハビリテー	ル、組	1織レベル、個	3つのシステムで 体レベルの機能維 リハビリテーショ	持とかかわ	りを有している	
到達目標	・各臓	践器系統別に疾患の成り立ちと診断・治療上の要点を学び、理学療法に応用できる。							
テキスト・ 参考図書等	標準理	学療法院	学・作業療法学	専門基	基礎分野 内科	学 第4版			
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポー		0						
評価基準	小テス	<u> </u>	0	定期記	試験により評価	iする。			
	提出物		0						
履修上の 留意事項		ず、予習		0					
履修主題・						履修内	 内容		
履修内容	1	生体学	 学総論		生物の進化とそのコントロール機構				
	2	動物と 疾患	こしての骨・関節	• 筋	骨・関節・筋の機能と疾患の診断と治療				
·	3	1	-ロンによる細胞 コール	性コ	脳・神経系機能と疾患の診断・治療				
	4		-ロンによる細胞 コール	性コ	脳・神経系機能と疾患の診断・治療				
	5	ホルモ			11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	能と疾患の診断・	治療		
		ローノ	Eンによる液性コ レ	ント		議能と疾患の診断・ 			
	6	ロー/ ホルモ ロー/	レ ∈ンによる液性コ レ	ント	内分泌の機能		············· 济		
		ロー/ ホルモ ロー/ 免疫 るコン	レ Eンによる液性コ レ (細胞性・液性) ノトロール	ントによ	内分泌の機能内分泌の機能	<b>と疾患の診断・</b> 治	涂療	治療(白血球)	
	6	ロー/ ホレー/ 免コ疫 免疫	レ Eンによる液性コ レ (細胞性・液性)	ントによ	内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と	だと疾患の診断・治 を疾患の診断・治	済		
	6 7	ロー/ ホロー/ 免コを るのを ののでする。	レ Eンによる液性コ レ (細胞性・液性) ィトロール (細胞性・液性)	ントによ	内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と	どと疾患の診断・治 と疾患の診断・治 アレルギー・膠原	治療 治療 三病の診断・	治療(白血球)	
	6 7 8	ロー/ ホロ焼る 免る 発コ で れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ	レ Eンによる液性コ レ (細胞性・液性) /トロール (細胞性・液性) /トロール	ントによ	内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と 消化器(消化能	だと疾患の診断・治 だと疾患の診断・治 アレルギー・膠原	治療 治療 原病の診断・ 原病の診断・ の機能と疾患	治療(白血球)	
	6 7 8 9	ロー/ ホロ焼る 免る 発コ で れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ	レ Eンによる液性コ レ (細胞性・液性) /トロール (細胞性・液性) /トロール B系疾患 W系疾患	ントによ	内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と 消化器(消化能	<ul><li>と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 アレルギー・膠原 アレルギー・膠原 で、肝・胆・膵)の で、肝・胆・膵)の</li></ul>	治療 治療 原病の診断・ 原病の診断・ の機能と疾患	治療(白血球)	
	6 7 8 9 10	ローノー・ロークー・ロークー・ローク・ローク・ローク・ローク・ローク・ローク・ローク・	レ Eンによる液性コ レ (細胞性・液性) ントロール (細胞性・液性) ントロール 景系疾患 景系疾患	ントによ	内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と 消化器(消化管 消化器(消化管	<ul><li>と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 アレルギー・膠原 アレルギー・膠原 で、肝・胆・膵) で、肝・胆・膵) で、肝・胆・膵) が断・治療</li></ul>	治療 治療 原病の診断・ 原病の診断・ の機能と疾患	治療(白血球)	
	6 7 8 9 10 11	ロホロ免る免る消化制料代謝	レ Eンによる液性コ レ (細胞性・液性) ントロール (細胞性・液性) ントロール 景系疾患 景系疾患	ントによ	内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と 消化器(消化 消化器(消化 代謝疾患の診 代謝疾患の診	<ul><li>と疾患の診断・治 と疾患の診断・治 アレルギー・膠原 アレルギー・膠原 で、肝・胆・膵) で、肝・胆・膵) で、肝・胆・膵) が断・治療</li></ul>	消療 消療 運病の診断・ 更病の診断・ の機能と疾患 の機能と疾	治療(白血球) きの診断・治療 患の診断・治療	
	6 7 8 9 10 11	ロホロ免る免る消消代代謝調明の対象の対象の対象の対象の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	レ Eンによる液性コ レ (細胞性・液性) (細胞性・液性) (細胞中ル (細胞中ル 景系疾患 景系疾患 系疾患	ントによ	内分泌の機能 内分泌の機能 免疫の機能と 免疫の機能と 消化器(消化 消化器(消化 代謝疾患の診 循環器(呼吸	だと疾患の診断・治 と疾患の診断・治 アレルギー・膠原 アレルギー・膠原 で・肝・胆・膵) で・肝・胆・膵) で、肝・胆・膵) が、治療 で、治療	治療 治療 見病の診断・ 可病の診断・ の機能と疾患 の機能と疾	治療(白血球) 点の診断・治療 患の診断・治療 患の診断・治療	

授業科目	内部障害学 A	担当教員	鬼原彰		市内の医科大学にて内科学教授 として教育に従事、その後、市内
1又未17日	1.3.101k.日子 V	実務 経験	有:■	無:□	病院で内科医として勤務。
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	内部障害	害理学療	寮法学 A		担当教員	横野 裕行			
対象年次・学期	2年・後	<b></b>		必但	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	8 🗉	時間数	15 時間	
授業目的	糖尿病	尿病・慢性腎臓病の基礎知識と合併症、運動療法やリスク管理、運動処方について学ぶ。							
到達目標	糖尿病	・慢性腎	腎臓病の運動療法	とリス	くク管理につい	て説明できる。			
テキスト・ 参考図書等	最新理	学療法学	糖尿病・代謝・ 対講座 内部障害理 記全攻略 Book			5 版			
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポー	<b> </b>	0	中田司	期試験 100 点満点中 60 点以上を合格とし、本試験で 60 点に満				
評価基準	小テス	<b> </b>	0		新試験 100 点周点中 00 点以上を占格とし、本試験 000 点に周 ないものは再試験にて 60 点以上を合格とする。				
	提出物		0						
	その他	3B - 5V B	0	L - 7	7 11 7 2 11 11 11 11	> b 1 = 24 > TER (T. )		12-12-	
履修上の 留意事項	ため、 2 年次履	わからた 夏修の内	ない所は質問し早 日部障害学、1年2	めに解 欠履修	ア決すること。 の解剖学・生ヌ	うちに覚え理解す 里学がベースとな <sup>え</sup> く意味を理解する	るため復習を		
履修主題・			履修主題			履修内容			
履修内容	1		エンテーション・ こついて	代謝	代謝の復習、代謝障害、肥満について学習する				
	2	糖尿症	<b></b>		糖尿病の病態	《・検査・治療方法	まについて学	習する	
	3	糖尿症	ちの合併症		糖尿病の合併 する	<b>弁症やその評価方法</b>	t、リスク管	理について学習	
	4	糖尿症	病の治療		糖尿病の食事	療法・運動療法の	)方法につい	て学習する	
	5	行動変	芝容		糖尿病疾患に対して、ただ理学療法をするだけではなく、 行動を継続させる手法を理解する				
	6	腎臓	腎不全 総論		腎臓について、慢性腎臓病の病態・検査・治療方法について学習する				
	7	腎不多	との理学療法			)評価・理学療法の			
	8	症例	食討・評価体験		糖尿病・慢性 をする	上腎臓病の代表的な	:評価を経験	する。症例検討	

授業科目	内部障害理学療法学 A	担当教員	横野裕行		道内・外の病院で理学療法士とし
汉朱竹白	P3印牌百姓于原丛于 A	実務 経験	有:■	無:□	て8年勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	運動療法	去 B			担当教員	元木 純			
対象年次・学期	2 年・追	 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		必但	 多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間	
授業目的						る。この授業では グラム実施に役立		基本的な原則・	
到達目標	②運動(	の効果と		科学的	対根拠にもとづ	説明できる。 いて説明できる。 ムを立案できる。			
テキスト・ 参考図書等	標準理論	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第 5 版							
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・ 評価基準	レポー		0	<del>,</del>	4FA - 1 0 == /-	- <u>-</u>			
<b>正川荃</b> 华	サラス 提出物		0	正期記	式験により評価	19つ。			
	その他		0						
履修上の 留意事項	運動療法					運動学の知識が不	可欠である。	,運動療法の履	
履修主題・	回		履修主題			履修	内容		
履修内容	1	オリコ 療法 <i>0</i>	ニンテーション、 D概念	運動	運動療法の概	動療法の概念、この科目を学ぶ目的を理解する。			
	2		療法の歴史、リス	ク管	のリスク管理	注の発展してきた歴史とその概念、運動療法実施時 くク管理について学習する			
	3	基本的	<b></b> り運動		縮様式による	の基本的種類について、運動を発現する力と筋収 よる内容から理解する			
	4	関節可	<b>可動域運動、伸張</b>	運動	運動、伸張運	関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域 伸張運動の 目的、方法について学習する			
	5	関節可	<b>丁動域運動、伸張</b>	運動	運動、伸張選	E常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域 運動、伸張運動の 目的、方法について学習する			
	6	関節可	<b>可動域運動、伸張</b>	運動	運動、伸張週		5法について	学習する	
	7	筋力均	曾強運動		ム、筋力増強	型学的機序、筋力( 食の目的と 方法(	こついて学習	する	
	8	筋力均	曾強運動			型学的機序、筋力値 並の目的と 方法に			
	9	筋力均	曾強運動		ム、筋力増強		こついて学習	する	
	10	筋力均	<b>曽強運動</b>		ム、筋力増強		こついて学習	する	
	11	筋力均	曽強運動		ム、筋力増強		こついて学習	する	
	12	筋力均	曾強運動		ム、筋力増強	型学的機序、筋力位 第の目的と 方法に	こついて学習	する	
	13	筋力均	曾強運動			閏学的機序、筋力値 €の目的と 方法に			
	14	筋力均	<b>曽強運動</b>		ム、筋力増強	型学的機序、筋力値 第の目的と 方法に	こついて学習	する	
	15	持久力	力増強運動		いて学習する				
	16	持久力	力増強運動		いて学習する				
	17		」増強運動	- 4	いて学習する				
	18		削御と運動学習理 (運動療法	論に 	運動制御と選 構成について	■動学習の理論を5 「学習する	里解し、理論	iに基ずく練習の	

19	協調性運動障害に対する運 動療法	運動の協調性を保つための機序、協調性運動の目的と方法 について学習する
20	バランス障害に対する運動 療法	バランス障害の分類、運動療法の理論と方法について学習 する
21	姿勢障害に対する運動療法	姿勢障害の分類、運動療法の理論と方法について学習する
22	発達と運動療法	発達とその障害、発達を促す運動療法について学習する
23	感覚障害・筋緊張異常に対 する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学 習する
24	感覚障害・筋緊張異常に対 する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学 習する
25	痛みに対する運動療法	痛みの定義・原因、痛みに対する運動療法について学習す る
26	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
27	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
28	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
29	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
30	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する

授業科目	運動療法 B	担当教員	小野直也		市内回復期病院で理学療法士と
		実務 経験	有:■	無:□	して5年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	運動学	実習 B			担当教員	横野 裕行			
対象年次・学期	2 年・近	<b></b> 通年		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	23 🗉	時間数	45 時間	
授業目的	理学療法士、作業療法士にとって運動時の身体の現象を捉え理解することは非常に重要である① 実習を通して観察・測定・分析の各段階を体験し、理解を深める。② 実習器具や実験装置の取り扱いを知るとともに、できる限り詳細な記録、鋭察を心掛け、深い分析力、考察力を身に付ける。 ③ 実験の一連の過程(目的・方法・結果・考察)について、標準的な書式に則って記載するを養う。							そを心掛け、より	
到達目標		① 身体運動によって生じる諸現象の基本的事項について説明できる。 ② 実習で得られた結果を書式に則って適切に記録・記載をすることができる。							
テキスト・ 参考図書等	基礎運動	動学(第	86版 補訂)						
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準	É		
	試験		0						
評価方法・ 評価基準	レポー		100	レポ-	- ト点 100%				
計価基準	小テス	<u> </u>	0			回のオリエンテ・	ーションで説	明する	
	提出物		0						
履修上の 留意事項	レポー		 リエンテーション			した内容のものる 期限を厳守するこ		と。探究心を持	
履修主題・			履修主題		履修内容				
履修内容	1	オリコ	ニンテーション		授業オリエンテーション、レポート課題の書き方				
	2	オリコ	ニンテーション		授業オリエンテーション、レポート課題の書き方				
	3	実習1			最大下酸素摂取量の推定(心拍数)				
	4	実習1			最大下酸素摂取量の推定(心拍数)				
	5	実習1			最大下酸素摂取量の推定(心拍数)				
	6	実習1			最大下酸素摂取量の推定(心拍数)				
	7	実習2	)		重心位置推定				
	8	実習2	) -		重心位置推定				
	9	実習2	)		重心位置推定	=			
	10	実習2	)		重心位置推定	=			
	11	実習3	3		筋力測定				
	12	実習3	3		筋力測定				
	13	実習3	3		筋力測定				
	14	実習3	3		筋力測定				
	15	実習4	1		歩行分析				
	16	実習4	1		歩行分析				
	17	実習4	ļ		歩行分析				
	18	実習4	1		歩行分析				
	19	実習5	)		嫌気性代謝閾	園値の推定(呼気	ガス)		
	20	実習5	)		嫌気性代謝闘	園値の推定(呼気	ガス)		
	21	実習5	)		嫌気性代謝闘	園値の推定(呼気	ガス)		

22	実習 5	嫌気性代謝閾値の推定(呼気ガス)
23	まとめ、フィードバック	まとめと復習

授業科目	運動学実習 B	担当 教員	山田里見		道内病院にて作業療法士として
1又未11日	<u></u> 建到于天日 D	実務 経験	有:■	無:□	6年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	日常生活	活活動詞	実習 B		担当教員	竹中 謙将			
対象年次・学期	2 年・減	<b></b> 五年		必作	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間	
授業目的		-	して、障がい像を明確に捉え、その人にあった日常生活活動方法を考える。さらに 訓練方法を実践する。また、様々な ADL 評価法を学び、演習する。					る。さらに安全	
到達目標	②障が	日常生活活動を安全で円滑に行う方法を実施できる。 )障がいを持つ人の日常生活活動方法を説明できる。 BADL 評価とその方法、定義について説明と実施ができる。							
テキスト・ 参考図書等			ュアルテキスト 第3版 ADL その		から応用				
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100	<del></del>	± ½ = 1 = ± ₽ 0 0 0	► 1. ch ++ =+ FA 00	+ o ∧ =1 ~ =1	5/ <del>m</del> +	
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス		0			点と実技試験 20 g いものは再試験に		価を行い、本試 <b>を記試験 100</b> 点	
u i im <del>z. +</del>	提出物	<u>r</u>	0		中 60 点以上を st除け等記試験	合格とする。 § 100 点満点で評価	また行う		
	その他		0	久州	以例とは 丰 山 弘例と	と100 黒画黒 5日間	۰۷ ۱۱ ک.		
履修上の 留意事項	この講	作がなる	されているか、ま			要になります。普 変化によってどう			
履修主題・	回		履修主題			履修 <sub>F</sub>	内容		
履修内容	1	オリコ	エンテーション						
	2	動作網	東習の基本			基本動作訓練を進る 3・指導方法につい		な運動を活用し	
	3	ポジシ	ノョニング		ポジショニング(良肢位)についてその方法を学ぶ				
	4	ADL	評価法		ADL 評価法について学ぶ				
	5	ADL	評価法		ADL 評価法について学ぶ				
	6	動作0	D分析		基本動作を分析する				
	7	動作0	D分析		基本動作を分析する				
	8	関節!	ノウマチの ADL		関節リウマチの ADL について学ぶ				
	9	変形性	生関節症の ADL		変形性関節症	Eの ADL について	学ぶ		
	10		骨折の ADL		下肢骨折のA	ADL について学ぶ			
	11	移動補	輔助具の選択、操 て	作に	移動補助具の	)選択、操作につい	って学ぶ		
	12	身のま	まわり動作練習		起居・移動動 方法について	が作、身のまわり重 ご学ぶ	が作の意味と	動作方法、訓練	
	13	複合重	か作練習のポイン	<b> </b>	複合動作の網	東習方法について営	±¸¸¸;°		
	14	神経変	変性疾患の ADL		神経変性疾患	見の ADL について	学ぶ		
	15	神経変	変性疾患の ADL		神経変性疾患	見の ADL について	学ぶ		
	16	脳卒中	中片麻痺の ADL		脳卒中片麻痺	厚の ADL について	学ぶ		
	17	脳卒中	中片麻痺の ADL		脳卒中片麻痺	厚の ADL について	 学ぶ		
	18	脳卒中	中片麻痺の ADL		脳卒中片麻痺	厚の ADL について	 学ぶ		
	19	脳卒中	中片麻痺の ADL		脳卒中片麻痺	厚の ADL について	学ぶ		
	20	脊髄排	員傷の ADL		脊髄損傷の A	ADL について学ぶ			
	21	脊髄护	員傷の ADL		脊髄損傷の A	ADL について学ぶ			
	22	脊髄排	員傷の ADL		脊髄損傷の A	ADL について学ぶ			

授業科目	日常生活活動実習 B	担当教員	吉田香織		道内の総合病院に理学療法士と
1又未行口	口市工冶冶勤大目 D	実務 経験	有:■	無:□	して10年以上勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	去評価活	法実習 A		担当教員	武田 祐貴			
対象年次・学期	2年・追	<b>通年</b>		必作	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態						23 回	時間数	45 時間	
授業目的	2. 各検 る。 3. 各検	食査が患 食査手技		負荷を きる。	理解するととも	忌動作や注意点等( もに、患者さんの)			
到達目標	各種検証	査法お。	よび評価法を身に <sup>・</sup>	つける					
テキスト・参考図書等	新・徒	手筋力物	学 第6版補訂版 検査法 原著第10 学・作業療法学・	DV] (DV					
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験	1	100						
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス	-	0	. 中#	⊕₩ (中壮・	2回の合質の平均	16割りしる	<b>△</b> ₩)	
可圆垒十	提出物	Γ	0	•	ガ武駅 (夫权・	2回の合算の平均	10 割以上で	可俗)	
	その他		0						
履修上の 留意事項	・解剖 を用意			して授	受業に臨むこと	。・授業は触診を行	行いやすく、	動きやすい服装	
履修主題・	回		履修主題		履修内容				
履修内容	1	徒手窟	<b>労力テスト</b>		筋力を測定す	- る方法の中の徒手	<b>手筋力テスト</b>	について学ぶ	
	2	徒手窟	<b>労力テスト</b>		筋力を測定す	- る方法の中の徒手	<b>手筋力テスト</b>	について学ぶ	
	3	整形外	整形外科特殊テスト		整形外科特殊テストについて学ぶ				
	4	整形外	<b>ト科特殊テスト</b>		整形外科特殊	<b></b> トテストについて学	学ぶ		
	5	感覚核	食査・疼痛検査		表在・深部・	複合感覚の検査法	去について学	٠,٢٠	
	6	感覚核	食査・疼痛検査		表在・深部・	複合感覚の検査法	<b>去について学</b>	2,3%	
	7	筋緊張テスト			筋緊張の検査	胚法について学ぶ			
	8	筋緊引	長テスト		筋緊張の検査	胚法について学ぶ			
	9	ンス核			バランス検査	胚法、パフォーマン	/ス検査法に	ついて学ぶ	
	10	ハフン	√ス検査、パフォ <sup>.</sup> 検査	<b>−</b> ₹	バランス検査	胚法、パフォーマン	/ス検査法に	ついて学ぶ	
	11	協調性	生検査		協調性検査法	こについて学ぶ			
	12	協調性	<b>生検査</b>		協調性検査法	ほについて学ぶ			
	13	片麻痺	車機能検査		Brunnstrom	Stage・片麻痺板	機能検査につ	いて学ぶ	
	14	片麻痺	車機能検査		Brunnstrom	Stage・片麻痺機	機能検査につ	いて学ぶ	
	15	脳神絲	圣検査		脳神経検査法	まについて学ぶ			
	16	高次脈	凶機能検査		高次機能検査	胚法について学ぶ			
	17	高次脈	凶機能検査		高次機能検査	胚法について学ぶ			
	18	運動夠	- 調検査		運動失調の検	食査法について学ぶ			
	19	運動夠	<b>上調検査</b>		運動失調の検	食査法について学ぶ			
	20	呼吸機	幾能検査		呼吸機能の検	食査法について学 ふ	<u>;</u>		
	21	呼吸機	幾能検査		呼吸機能の検	食査法について学ぶ	3,		

22	姿勢・動作分析	姿勢・動作の診かたを学ぶ
23	姿勢・動作分析	姿勢・動作の診かたを学ぶ

授業科目	理学療法評価法実習 A	担当教員	他		
汉朱竹口	<b>建于</b> 原丛叶圃丛关目 //	実務 経験	有:□	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	運動療法	法実習 /	P		担当教員	元木 純				
対象年次・学期	2 年・減	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	23 🗓	時間数	45 時間		
授業目的	この授	業では選	は運動療法で学習した内容について実習を通して学び、理解を深めていく。							
到達目標	②各運	①運動療法の原則、目的、方法論等について説明できる。 ②各運動療法の基本的な手技を身につけ、対象者に実施できる。 ③実際の患者に対して立案した治療プログラムを計画に沿って実施でき修正ができる。								
テキスト・ 参考図書等	標準理	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第5版								
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準	隼			
	試験		100							
評価方法・ 評価基準	レポー		0	<b>+++=</b>	式験により評価	<del></del>				
可剛垒牛	小テス 提出物	٢	0	夫抆記						
	をの他		0							
履修上の 留意事項	学内授 る治療	手技では		 手技の実施が主となるが、運動療法は理学療法士が行なう根幹と 常者に対して正確にかつ安全に実施できるよう、十分に練習する で受講すること。						
			履修主題		履修内容					
履修主題・ 履修内容	1	基本的	<b>対運動、リスク管</b>	理	身体運動の基本的種類について、運動を発現する力と筋収 縮様式による内容を体験する。運動療法実施時のリスク管 理について実習する。					
	2	関節ロ	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を維持/拡大するための関節可動域運動、伸張 運動の目的、方法 について実習する。					
	3	関節可	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を	可動域を維持/拡大するための関節可動域運動、伸張 D目的、方法 について実習する。				
	4	関節ロ	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を維持/拡大するための関節可動域運動、伸張 運動の目的、方法 について実習する。					
	5	関節可	丁動域運動、伸張	運動		関節可動域を維持/拡大するための関節可動域運動、伸張 運動の目的、方法 について実習する。				
	6	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	7	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	8	筋力增	曾強運動		筋力増強運動	かの目的と方法に	ついて実習す	3.		
	9	筋力增	曾強運動		筋力増強運動	かの目的と方法に	ついて実習す	る。		
	10	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	11	筋力增	曾強運動		筋力増強運動	かの目的と方法に	ついて実習す	る。		
	12	持久力	口増強運動		持久力増強週	<b>運動の目的と方法</b>	について実習	する。		
	13	持久力	口増強運動		持久力増強週	<b>運動の目的と方法</b>	について実習	する。		
	14		口増強運動		持久力増強週	<b>運動の目的と方法</b>	について実習	する。		
	15		川御と運動学習理 、運動療法	.論に 	運動学習理論	論に基づく運動療	法について実 <u></u> -	習する。		
	16	動療法			協調性改善過	<b>運動の目的と方法</b>	について実習	 する。		
	17	バラン 療法	/ス障害に対する	運動	バランス練習	習の目的と方法を	実習する。			
	18	姿勢障	章害に対する運動	療法	姿勢障害に対	付する運動療法を	実習する。			
	19		2運動療法		発達とその障	言、発達を促す	運動療法につ	いて実習する。		
	20	1	章害・筋緊張異常 運動療法	に対	感覚障害、筋	筋緊張異常に対す	る運動療法を	実習する。		

21	痛みに対する運動療法	痛みに対する運動療法について実習する。
22	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラ ムを実際に組み立て、実施する。
23	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムを実際に組み立て、実施する。

授業科目	運動療法実習 A	担当教員	小野直也		市内回復期病院で理学療法士と
汉朱竹白	<u></u> 建到原瓜天目 N	実務 経験	有:■	無:□	して5年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	神経障害	害理学療	寮法学 A		担当教員	山内 真帆			
対象年次・学期	2年・	<b></b> 参期		必值	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態				授業回数 15 回 時間数 30 時間					
授業目的	ける病類	態像、降	章害像の理解を深	学療法の主要対象疾患についての知識の統合をはかる。各疾患にお 深め、それに応じた理学療法評価項目の選択と目標設定、治療計画 とはかることを目的とする。					
到達目標			、脊髄損傷、神経筋疾患の病態、評価について説明できる。 ※療の流れについて説明できる。						
テキスト・ 参考図書等	病気が. 標準理 脊髄損	見える 学療法等 傷理学療	法学専門分野 神経理学療法学 第3版 る Vol.7 脳・神経 第2版 法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像 学療法マニュアル第3版						
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス	-	0	中押≒	式験により評価	i <del>d</del> Z			
III June 4	提出物	Γ	0	<b>止</b> 期記	心炭により計皿	19 වං			
	その他		0						
履修上の 留意事項		める。基		-		さないでその場で と重複する話が多			
履修主題・			履修主題			履修内	內容		
履修内容	1	脳血管	管障害		脳血管障害・ 管障害の理学	総論、脳血管障害 等法 評価、脳	子の合併症と 4血管障害の		
	2	脳血管	管障害		脳血管障害・ 管障害の理学	総論、脳血管障害 <sup>2</sup> 療法 評価、脳	子の合併症と 4血管障害の		
	3	脳血管	管障害		脳血管障害・ 管障害の理学	総論、脳血管障害 整療法 評価、脳	子の合併症と 4血管障害の		
	4	脳血管	管障害		管障害の理学		子の合併症と 6血管障害の		
	5	脳血管	管障害		脳血管障害・ 管障害の理学	<b>治療法 評価、脳</b>	血管障害の		
	6	脳血管	管障害		管障害の理学		血管障害の	理学療法	
	7	脊髄掛	員傷		損傷の理学療	いての総論、脊髄 を法評価、脊髄損傷	らい 理学療法		
	8	脊髄排	員傷		損傷の理学療	いての総論、脊髄 優法評価、脊髄損傷	の理学療法		
	9	脊髄护	員傷		損傷の理学療	いての総論、脊髄 療法評価、脊髄損傷	らい 理学療法		
	10	脊髄掛	員傷		損傷の理学療	いての総論、脊髄 を法評価、脊髄損傷	らい 理学療法		
	11	脊髄掛	員傷		損傷の理学療	いての総論、脊髄 法評価、脊髄損傷	の理学療法		
	12	神経難	推病		多発性硬化症	/病・脊髄小脳変性 の総論・評価・理	学療法		
	13	神経難	推病		多発性硬化症	/病・脊髄小脳変性 の総論・評価・理	学療法		
	14	神経難	推病		多発性硬化症	∕病・脊髄小脳変性 ■の総論・評価・理	学療法		
	15	神経難	推病			∕病・脊髄小脳変性 ■の総論・評価・理		性側索硬化症・	

授業科目 神経障害理学療法学 A	§法士と
実務	
対象中の・子前   2 中・後期   教員   実務   経験   担当   教員   実務   経験   担当   教員   実務   経験   担当   教員   実務   実務   と   と   を   を   を   を   を   を   を   を	
経験	
教員       実務       経験       担当       教員       実務	
経験       担当 教員       実務	
教員 実務	
112-22	
担当 教員	
実務   経験	
担当 教員	
担当 教員	
実務   経験	
担当 教員	
実務	
担当 教員	
担当 教員	
世当 教員	

授業科目	物理療法	± B			担当教員	吉田 智子			
及木竹口	777年7878								
対象年次・学期	2 年・後	<b></b>		必值	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	各種物理	各種物理療法について、原理・生理学的作用・効果の機序について理解する							
到達目標			頭・原理・目的・3 て手技を実施でき			管理を理解し説	明・記述できん	ること。	
テキスト・ 参考図書等	最新理學	最新理学療法学講座 物理療法学 (医歯薬出版株式会社)							
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準	<b>集</b>		
	試験		100						
評価方法・ 評価基準	レポー		0	un -	DEA	_			
計Ш基準	小テス	<u> </u>	0	定期認	<b>試験にて評価す</b>	る。			
	提出物		0						
 履修上の 留意事項	6.3/10								
			履修主題			履修			
履修内容	1	オリコ療法総	ロンテーション、 総論	勿理	理学療法における物理療法の役割・分類、物理療法の対象 となる病態の整理				
	2	物理療	療法の臨床適応と	評価	物理療法の対象となる病態の整理、評価方法の確認				
	3	温熱療	寮法		温熱療法の原 て	理、目的、生理	学的効果と適	応・禁忌につい	
	4	ク、パフノイン、亦外線			各種温熱療法	長の適応・禁忌、	実施手順につ	いて	
	5					理、目的、生理	学的効果と適	応・禁忌につい	
	6		· 禁法各論			長の適応・禁忌・			
	7	電磁派 短波)	支療法 (超短波、 <sup>†</sup>	<b>亟超</b>	施手順につい	ヽて		適応・禁忌、実	
	8	超音源	<b>支療法</b>		施手順につい	ヽて		適応・禁忌、実	
	9	電気刺	<b>削激療法</b>			この原理、目的、 ロスク管理につい		と適応・禁忌、	
	10	電気刺	引激療法各論		各種電気刺激	対療法の適応・禁	忌、実施手順	について	
	11	光線療	· 療法 		手順について	-		応・禁忌、実施	
	12	牽引癢	<b>豪法、圧迫療法</b>		牽引療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、実施 手順について 圧迫療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、実施 手順について				
	13	水治療	 §法		水治療法の原 て	理、目的、生理	学的効果と適	応・禁忌につい	
	14		· 禁法各論		各種水治療法	長の適応・禁忌、	実施手順につ	いて	
	15	物理療	療法の臨床応用、:	まと	 物理療法の臨	ā床応用について			

授業科目	物理療法 B	担当 教員 実務	
		経験	
対象年次・学期	2年・後期	担当教員	
授業形態		実務 経験	
		担当 教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	

授業科目	臨床運動	動学 B			担当教員	浜本 浩一			
対象年次・学期	2 年・追	通年		必值	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態				授業回数	23 回	時間数	45 時間		
授業目的	分析が 歩行の 特徴を[	できる。 観察を言 図示する	①姿勢と動作の己述することがで	観察に きる。 ④基本	必要な用語を ③基本姿勢、 姿勢、基本動	を理解し、健常者 使うことができる 基本動作、歩行に 作、歩行の観察か る。	。②基本姿勢	勢、基本動作、 により発見した	
到達目標	正常な基本動作のメカニズムを理解し、動作分析を身につける。								
テキスト・ 参考図書等	動作分析 臨床活用講座 観察による歩行分析								
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		80						
評価方法・	レポー		0	前期,	• 後期定期試験	(筆記)、前期小	テスト 後期	目ポスター発表	
評価基準	サラス 提出物	<b>-</b>	10		して評価する				
			0						
履修上の 留意事項	その他     10       学生間での実習は、健常な動作の理解			の理解	解には不可欠なので集中して取り組むように。				
履修主題・			履修主題			履修2	内容		
履修内容	1	動作分	分析の基礎 1		臨床運動学とは 身体運動の分析方法(運動・動作・行 為)				
	2	動作分	分析の基礎 2		日常生活活動	かと基本動作の関係	Ŕ		
	3	動作額	見察・動作分析		身の回り動作の細分化				
	4	動作分	分析の基礎 3		基本動作の評価方法(動作・運動分析)				
	5	姿勢観	見察・分析		臥位・座位・立位、姿勢観察・分析の実際				
	6	バイオ	トメカニクス 1		体重心の求め方、身体に働く力(重力、床反力、摩擦力、 外力)				
	7	バイス	トメカニクス 2		力の合成と分解、てこ、関節モーメントと筋活動				
	8	グルー	-プワーク1		授業方法の説明				
	9	グルー	-プワーク2・3		寝返り動作 寝返り動作のポスター発表				
	10	グルー	-プワーク2・3			)ポスター発表			
	11	グルー	-プワーク4・5	• 6		<b>動作のポスター発表</b>	₹		
	12	グルー	-プワーク4・5	• 6	起き上がり動 起き上がり動 起き上がり動	<b>動作のポスター発表</b>	-		
	13	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	-プワーク4・5		起き上がり動	か作のポスター発表 かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かん	₹		
	14	グルー	-プワーク7・8	• 9	立ち上がり動作 立ち上がり動作のポスター発表				
	15	グルー	-プワーク7・8	• 9	立ち上がり動作のボスター発表				
	16	グルー	-プワーク7・8	• 9	立ち上がり動作 立ち上がり動作のポスター発表				
	17	グルー	-プワーク10・	1 1	1 歩行				
	18	グルー	-プワーク10・	1 1	歩行				
	19	グルー	-プワーク12		歩行のポスタ	7 一発表			

20	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
21	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
22	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行
23	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行

授業科目	臨床運動学 B	担当教員	浜本浩一		道内外の総合病院等で理学療法
汉朱竹百	山州小八在为」」	実務経験	有:■	無:□	士として 16 年間勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	発達障害	書学 B			担当教員	佐々木 智教	佐々木 智教		
対象年次・学期	2 年・後	<b></b>		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	8 🗉	時間数	15 時間	
授業目的		た、近年				)特徴、子ども特7 題、障害児に対す			
到達目標	子ども特	子ども特有の疾患・病態について理解する。							
テキスト・ 参考図書等	言語聴宜	覚士のか	どめの基礎知識、	小児科	4学・発達障害	学 第3版			
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポー	•	0		HR - NEA				
評価基準	小テス	<b></b>	0	定期記	定期試験により評価する。				
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項	医療を表	ます者 と	こしての自覚を持	ち、学	智意欲を保っ	て授業に臨むこと	0		
履修主題・			履修主題		履修内容				
履修内容	1	オリコ 科学概	ニンテーション、 既論	小児	小児科学とは。小児科学を取り巻く環境の変化。小児医療 における理学療法士・作業療法士の役割。				
	2		·周産期、新生児	・乳					
	3	遺伝系	ァーストルース 実患・先天異常、 なんかん	神経					
	4		也の疾患		循環器、呼吸器、消化器、代謝、内分泌、感染症、免疫、 アレルギー、泌尿器、脳腫瘍				
	5		)発達と成長、運 ・発達障害	動・	発達の概念。健常な発達。小児の成長。運動発達障害、知 的障害、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害(ADHD)				
	6	重症心	心身障害		重症心身障害の特徴、側湾、姿勢異常、筋緊張亢進、摂食・嚥下の異常、呼吸障害、気管切開・咽頭気管分離。				
	7	医療的	<b>ウケア</b>		在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族の支援、訪問看 護と訪問リハの連携、発達支援としての外来リハ。				
	8	小児の	)在宅医療		小児の在宅医療における理学療法士・作業療法士の役割と 期待するもの。			療法士の役割と	

授業科目	発達障害学 B	担当教員	佐々木智	教	市内小児施設にて理学療法士と
及水平百	7.Z.(F.1.) U	実務 経験	有:■	無:□	して 10 年以上勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	発達障害	害学 A			担当教員	佐々木 智教			
対象年次・学期	2 年・復	<b></b>		必作	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	8 🗉	時間数	15 時間	
授業目的		た、近年	Fその重要性が増			D特徴、子ども特7 題、障害児に対す			
到達目標	子ども特	子ども特有の疾患・病態について理解する。							
テキスト・ 参考図書等	言語聴力	言語聴覚士のための基礎知識、小児科学・発達障害学 第3版							
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポー	<u> </u>	0						
評価基準	小テス	<b> </b>		定期記	式験により評価	iする。			
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項	医療を決	志す者と	としての自覚を持	ち、学	営意欲を保っ	て授業に臨むこと	0		
履修主題・			履修主題		履修内容				
履修内容	1	オリコ科学権	エンテーション、 既論	小児	小児科学とは。小児科学を取り巻く環境の変化。小児医療 における理学療法士・作業療法士の役割。				
	2	胎児 児健記	・周産期、新生児 ・周産期、新生児	・乳	胎芽病と胎児病、子宮内発育不全、周産期障害など。出生から退院まで。乳児の発達。乳児健診				
	3		実患・先天異常、 ・てんかん	神経					
	4	その他の疾患			アレルギー、	及器、消化器、代調 泌尿器、脳腫瘍			
	5		D発達と成長、運 ・発達障害	動・	的障害、広迩	健常な発達。小児 l性発達障害、注意	5欠陥多動性	障害(ADHD)	
	6	重症心	心身障害		重症心身障害の特徴、側湾、姿勢異常、筋緊張亢進、摂 食・嚥下の異常、呼吸障害、気管切開・咽頭気管分離。				
	7	医療的	勺ケア		在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族の支援、訪問看 護と訪問リハの連携、発達支援としての外来リハ。				
	8	小児の	D在宅医療		小児の在宅医療における理学療法士・作業療法士の役割と 期待するもの。				

授業科目	発達障害学 A	担当教員	佐々木智	教	   市内小児施設にて理学療法士と   して 10 年以上勤務
		実務 経験	有:■	無:□	UC 10 平以上到份
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	一般臨月	未医学	В		担当教員	鬼原 彰			
対象年次・学期	2 年・後	<b></b>		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	を学習 <sup>-</sup> ・多く(	・臨床系科目の中で、内科学、精神医学などカリキュラムに取り入れられている科目以外の命を学習するものである。 ・多くの臨床系科目が含まれており、要点のみの講義となるので、さらに他の成書を用いてき を深めることが必要である。							
到達目標	・下記の	・下記の診療科目に関して、主要な疾患概要の理解を深める							
テキスト・ 参考図書等	PT·0	PT・OT・S T のための一般臨床医学 第 3 版							
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポー	·	0						
評価基準	小テス	<u> </u>		定期記	試験により評価	Ī			
	提出物		0						
 履修上の	その他		U						
留意事項	欠席せず、予習復習をすること								
履修主題·			履修主題		履修内容				
履修内容	1	老年图	<b>E</b> 学		老年医療とリハビリテーション				
	2	老年图	三学 二十二		老年医療とリハビリテーション				
	3	老年图	三学 二十二		老年医療とリハビリテーション				
	4	消化器	<b></b>		・主な消化器系外科疾患とリハビリテーション・外科総論(一部)				
	5	消化器	景系外科		・主な消化器系外科疾患とリハビリテーション・外科総論(一部)				
	6	脳外科	<u> </u>		・主な脳神経系外科疾患とリハビリテーション・外科総論(一部)				
	7	脳外科	 斗		・主な脳神経科系外科疾患とリハビリテーション・外科総論(一部)				
	8	循環器	<b>号外科、呼吸器外</b>	科	・主な循環器系外科疾患とリハビリテーション・主な呼吸器系外科疾患とリハビリテーション・外科総論(一部)				
	9	循環器	8外科、呼吸器外	科	・主な循環器系外科疾患とリハビリテーション ・主な呼吸器系外科疾患とリハビリテーション ・外科総論(一部)			ョン	
	10	救命排	<b>汝急</b>		・心肺蘇生法、ショック、呼吸管理、中心静脈栄養、輸血 法、救急処置、ICU ・外科総論(一部)				
	11	皮膚科	¥		解剖、生理、症状、病態生理、主な皮膚疾患				
	12	泌尿器	尿器科		解剖、生理、診断、検査、主な泌尿器疾患と生殖器疾患				
	13	産婦丿	 人科		解剖、生理、妊娠、分娩、出産、異常妊娠と合併症、生殖 器疾患				
	14	眼科				症状、病態生理、	主な眼疾患		
	15	耳鼻科	斗		解剖、生理、症状、病態生理、主な耳・鼻・喉頭・咽頭疾患				

授業科目	一般臨床医学 B	担当教員	外部講師		病院勤務の臨床医
IXATTO	DARINE J D	実務 経験	有:■	無:□	אוואם גענינע-טקוניזע אוויים אוויים אוויים
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	運動療法	法実習[	3		担当教員	元木 純			
対象年次・学期	2 年・道	<b>通</b> 年		必何	 多・選択区分	必修	単位数		
						23 🗉	時間数	45 時間	
授業目的	この授業では運動療法で学習した内				<b></b> アについて実習	を通して学び、ヨ	里解を深めて	いく。	
到達目標	②各運	動療法の	原則、目的、方法 0基本的な手技を こ対して立案した	身につ	つけ、対象者に	実施できる。	でき修正がで	きる。	
テキスト・ 参考図書等	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第5版								
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準	隼		
	試験		100						
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス		0	宇壮≕	式験により評価	はる			
可順坐十	提出物	٢	0	夫权。	八級により計価	190.			
	その他		0						
履修上の 留意事項	る治療	中内授業では健常者に対する手技の			実施が主となるが、運動療法は理学療法士が行なう根幹とな 対して正確にかつ安全に実施できるよう、十分に練習するこ けること。				
			履修主題			履修	内容		
履修主題・ 履修内容	1	基本的	<b>対運動、リスク管</b>	理	身体運動の基本的種類について、運動を発現する力と筋収縮様式による内容を体験する。運動療法実施時のリスク管理について実習する。				
	2	関節ロ	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を	注維持/拡大する 方法 につ			
	3	関節可	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を	節可動域を維持/拡大するための関節可動域運動、伸張 動の目的、方法 について実習する。			
	4	関節可	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を維持/拡大するための関節可動域運動、伸張 運動の目的、方法 について実習する。				
	5	関節可	<b>丁動域運動、伸張</b>	運動	関節可動域を維持/拡大するための関節可動域運動、伸張 運動の目的、方法 について実習する。				
	6	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。				
	7	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。				
	8	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。				
	9	筋力堆	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。				
	10	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。				
	11	筋力增	曾強運動		筋力増強運動	かの目的と方法に	ついて実習す	- る。	
	12	持久力	口増強運動		持久力増強週	■動の目的と方法	について実習	する。	
	13	持久力	口増強運動		持久力増強選	運動の目的と方法	について実習	する。	
	14		持久力増強運動		持久力増強週	■動の目的と方法	について実習	する。	
	15		運動制御と運動学習理論に 基づく運動療法		運動学習理論	論に基づく運動療	法について実 <u></u>	習する。	
	16	動療法	協調性運動障害に対する過 動療法		協調性改善運動の目的と方法について実習する。				
	17	バラン 療法	/ス障害に対する	運動	バランス練習の目的と方法を実習する。				
	18	姿勢障	章害に対する運動	療法	姿勢障害に対	対する運動療法を	実習する。		
	19		2運動療法		発達とその障	言、発達を促す	運動療法につ	いて実習する。	
	20	1	き害・筋緊張異常 運動療法	に対	感覚障害、筋	筋緊張異常に対す	る運動療法を	 実習する。	

21	痛みに対する運動療法	痛みに対する運動療法について実習する。				
22	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラ ムを実際に組み立て、実施する。				
23	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムを実際に組み立て、実施する。				

授業科目	運動療法実習 B	担当教員	小野直也		市内回復期病院で理学療法士と
228114		実務 経験	有:■	無:□	して5年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	情報科学IIA			担当教員	笹谷 純代				
対象年次・学期	2 年・前	<b></b>		必作	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	PowerF 報やデ	Point の ータのタ	操作方法を身につ	つける	ことを目的とす	ラシーと Microsf する。また、社会st 用するための知識	生活において	必要となる、情	
到達目標	③Powe	erPoint	てレポートやポス を使ってスライ   でのモラルや責任	が作	成できる。	②Excel を値 え方を説明できる		が作成できる。	
テキスト・ 参考図書等	30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 Windows 10 対応								
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		50						
評価方法・ 評価基準	レポー	- 久討験の平均占 50%							
可順坐牛	評価基準     小テスト     0       提出物     50								
	その他		0						
履修上の 留意事項	①授業は PC 室で行うので時間までに着席していること。②説明と実習(実習がメイン)③テキストは 1 年時のものを使用する。								
履修主題・			履修主題			<b>履修</b> P	内容		
履修内容	1		ピューターとイン 、(序章)	ター	ネット社会で	ごのトラブル、回過	達するために		
	2		との応用(第2章	付	ビジネス文書	まで 基礎知識			
	3	文書化	との応用(第2章	7)	長文作成をサ	ナポートする			
	4	文書化	との応用(プリン	<b>F</b> )	住所録作成、	差し込み印刷、は	はがき印刷		
	5	文書化	との応用(プリン	<b>F</b> )	名刺作成、宛名ラベル作成				
	6	文書化	との応用(プリン	<b>F</b> )	ポスター作製	ال د			
	7	章 5)	算ソフトの活用(		いろいろな数	対式(絶対参照、し	ゝろいろな関	数)	
	8	表計算 章 7)	算ソフトの活用(	第3	データベース	スの利用(並べ替え	こ、データの	抽出)	
	9	表計算 章 8)	算ソフトの活用(	第3	Excel のデー	タを Word 文書に	貼り付ける		
	10	表計算ント)	算ソフトの活用 (	プリ	ピボットテー	-ブル			
	11	表計算ント)	算ソフトの活用(	プリ	さまざまな集	計表			
	12	ント)	ダソフトの活用(	用(プリ さまざまな集計表					
	13	の活用	ジンテーションソ 月 (第 4 章 7)	スフイトンョーをサホートする機能					
	14		ヹンテーションソ 月 (第4章 付録)	フト	プレゼンテーションの基礎技能				
	15	まとぬ	5		総合演習、情	<b>報モラル</b>			

授業科目	情報科学 II A	担当教員	笹谷純代		IT 講習、雇用促進等のインストラクターとして 20 年以上にわた
	IBINITY WA	実務 経験	有:■	無:□	り従事
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	運動器	障害学	В		担当教員	元木 純					
 対象年次・学期	2 年・ji	<b>通</b> 年		必作	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的						必要不可欠な、疫 通じて学習し理解		カニズム・代表			
到達目標	につい	て説明 <sup>・</sup> として、	・記述ができる。 各関節に代表的			法・外傷学を学習 ・発症メカニズム					
テキスト・ 参考図書等	標準整	標準整形外科学 第 14 版									
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		100								
評価方法・	レポー	<b></b>	0								
評価基準	小テス	<u> </u>	0	定期記	定期試験により評価する。						
	提出物 0										
	その他		0								
履修上の 留意事項	積極的(	に質問す	すること。								
履修主題・	□		履修主題			履修P	9容				
履修内容	1	整形外	<b>卜</b> 科総論		診断・治療総論						
	2	疾患怨	<b></b> 夫患総論		外傷総論・軟部組織損傷(末梢神経損傷・脱臼・靭帯損傷)						
	3	疾患疫	失患総論		骨折						
	4	疾患疫	<b></b> 夫患総論		軟部組織・骨・関節の感染症						
	5	疾患疫	<b></b> 夫患総論		四肢循環障害の診察・診断						
	6	疾患疫	失患総論		代謝性骨疾患	・骨腫瘍					
	7	疾患疫	失患総論		関節リウマチ	<u>-</u>					
	8	疾患疫	失患総論		変形性関節症						
	9	疾患名	<b>S</b> 論		足部・足関節	族患					
	10	疾患名	<b>S</b> 論		膝関節疾患						
	11	疾患名	<b>S</b> 論		股関節疾患						
	12	疾患名	<b>S</b> 論		脊椎・胸郭疫	患					
	13	疾患名	<b>S</b> 論		上肢疾患①(肩関節疾患)						
	14	疾患名	<b>S</b> 論		上肢疾患②(肘・手関節疾患)						
	15	疾患名	<b>S</b> 論		上肢疾患③	(上肢のスポーツ障	害)				

授業科目	運動器障害学 B	担当教員	元木純		市内整形外科病院にて理学療法
汉朱竹口	定到即件百丁 D	実務 経験	有:■	無:□	士として 18 年間勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床実	臨床実習IB			担当教員	横野 裕行					
対象年次・学期	2年・後	後期		必作	多・選択区分	実習		単位数			
授業形態					授業回数	90 🗉		時間数	180 時間		
授業目的	る評価の導者のして患	の進め7 下、見 者さん <i>の</i>	・専門科目で学ん うを学習する。各 学・模倣・実施す ロニーズやゴール	種疾患 ること を考察	の症例に即し が重要な課題 としていく。	て、各	種の情報収	集及び検査	・測定手順を指		
到達目標	b) 各疾 c) 検査	a) 他職種からの情報を得ることができる。 b) 各疾患に合わせて検査・測定を実施できるようになる。 c) 検査結果を記録し、自ら調べ得る範囲内で異常の原因や各検査結果の関連性を考えることで、 評価結果の妥当性を検討することができる。									
テキスト・ 参考図書等	臨床実習の手引き										
	評価に	方法	評価割合(%)				評価基準				
	試験		0								
評価方法・	レポー	<b></b>	0	r/= c+-c		:/ <del></del> \.	h33±0 + ∧		<b>.</b>		
評価基準	小テス	<b> </b>	0		₹習指導者の評 りに評価する。	1回と、	夫省和古艺	にわりる発	衣内谷を併せ、		
	提出物		20								
	その他		80								
履修上の 留意事項			丁ってから実習に 〈対象者の気持ち			持って	実習を行っ	てください。			
			履修主題				履修F	内容			
履修主題・ 履修内容	1		l-5 回】 《習前評価		実習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを 確認する。						
	2		6-88 回】 ā床実習		各実習施設に赴き臨床教育者の指示のもと、病歴などに関する医学的情報を収集したり、関節可動域や徒手筋力テストなどの検査・測定を体験(見学・模倣・実践)し、評価結果の妥当性や根拠のある評価に務める大切さを学習する。						
	3		89-90 回】 ミ習後評価	9-90回】 実習における教育成果の判定には実習報告会の内容や提物等について確認し、際味教育考証価を参考に終合的に							

授業科目	臨床実習IB	担当教員	山内真帆		道内の病院で理学療法士として
汉朱竹石	咖小犬 b I D	実務 経験	有:■	無:□	8年以上勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	精神障	害学 B			担当教員	鵜飼 渉			
対象年次・学期	2 年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態				授業回数		15 回	時間数	30 時間	
授業目的			D基本症状と治療 る患者の理解に必				がら講義する	。リハビリテー	
到達目標	各種精	神疾患の	D基本症状と治療	法につ	ついて理解する	•			
テキスト・ 参考図書等	標準理学療法学·作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第 4 版 参考図書:新精神医学								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基	準		
	試験		100						
評価方法・	レポー	<b> </b>	0						
評価基準	小テス	<u> </u>	0	定期記	式験により評価	する。			
	提出物		0	0					
	その他		0						
履修上の 留意事項			心理的な視点、 して作業療法の治				精神障害を学	ぶ。精神医学の	
履修主題·	□		履修主題				多内容		
履修内容	1		医学総論、成因・ E物学的精神医学		精神医学とは ス脆弱性モラ	は、概念、歴史、 デル	3つの成因に	ついて、ストレ	
	2		E学総論、成因・ E物学的精神医学		ス脆弱性モラ			•	
	3		章害、人格障害、 D生物学	感情	病、操うつ症 助、リハビリ	病、持続性気分障 リテーション	言書、経過及び	望害の概念、うつ 『予後、治療と援	
	4		章害、人格障害、 D生物学	感情		5、持続性気分障		望害の概念、うつ 『予後、治療と援	
	5	統合領	<b></b> - 調症		成因、疫学、症状の捉え方、診断、経過と予後、社会生活 面での障害、治療とリハビリテーション				
	6	統合領	<del>上</del> 調症		成因、疫学、症状の捉え方、診断、経過と予後、社会生活 面での障害、治療とリハビリテーション				
	7	神経性	<b>主障害、心身症</b>		心とするもの	つ、ストレス関連	障害、解離・	るもの強迫を中 転換を中心とす 、心身症として	
	8	神経性	<b></b>		心とするもの	つ、ストレス関連	障害、解離・	るもの強迫を中 転換を中心とす 、心身症として	
	9	アル <sup>:</sup> 存症	コール依存症、薬	診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール位 群 アルコール依存症を其般に生じる精神障害					
	10	アルコール依存症、薬物存症		診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症( 群、アルコール依存症を基般に生じる精神障害、アルコ					
	11	児童・害	·青年期障害、発	精神・心理発達の特性 行動及び情緒障害 その他の制					
	12	児童・	・青年期障害、発	達障	精神・心理系	発達の特性、行動	カ及び情緒障害	、その他の精神	

	害	障害、心理的発達の障害とは、特異的発達障害、広汎性発 達障害、治療とリハビリテーション
13	心理検査、心理療法、メン タルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検 査、各種心理療法とその実際
14	心理検査、心理療法、メン タルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検 査、各種心理療法とその実際
15	老年期精神医学	心理社会的特性、初老期・老年期の精神障害、リエゾン精神医学とは、リエゾン精神医学が必要となる精神疾患・症状、精神的・心理的問題、精神障害と刑法、民法、精神鑑定、精神の病と社会の関係、学校・職場・家庭のメンタルヘルス

授業科目	精神障害学 B	担当教員	大井達也		市内クリニックにて 2 年間心理 士として勤務。市内医科大学付属 病院にて公認心理師として 2 年
		実務 経験	有:■	無:□	以上従事
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	運動器障	章害理学	学療法学 B		担当教員	吉田 智子					
対象年次・学期	2 年・後	炎期		必何	多・選択区分	必須	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	0 時間			
授業目的	た基礎知	口識を理		識を基	はに理学療法評	状・障害、解剖・ 価項目の選択、統					
到達目標	2. 基礎 3. 評価 きる。	4. 結果を基に問題点抽出・整理・優先順位の明確化ができる。									
テキスト・ 参考図書等	局所と全 リハビ! 義肢装具	osslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 所と全身からアプローチする運動器の運動療法 第1版 ハビリに直結する!運動器画像の見かた 肢装具学 第2版 準整形外科学 第13版									
	評価方	5法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		100								
評価方法・	レポート 0										
評価基準				定期記	式験により評価	する。					
	提出物		0								
履修上の 留意事項	・身体 <i>の</i> ・授業態	D露出だ 態度の7	型学、運動学の復 が必要な授業は、 へ良な者は厳しい ての適正及び態度	動きや 対応を	ウすい服装で参 ごする。		への参加を記	忍めない。			
履修主題・	□		履修主題		履修内容						
履修内容	1	運動器	器疾患理学療法の	基礎	運動器疾患理学療法の基礎						
	2	骨折①	)		骨折の理学療法〔基礎知識~評価〕						
	3	骨折②			骨折の理学療法〔基礎知識~評価〕						
	4	末梢神	経障害		末梢神経障害と理学療法〔基礎知識~評価〕						
	5	変形性	上関節症①		変形性関節症	Eの理学療法〔基礎	を知識~評価	)			
	6	変形性	性関節症②		変形性関節症	<b>Eの理学療法〔基礎</b>	を知識~評価	)			
	7	捻挫、	靭帯損傷、脱臼	1	捻挫、靭帯損	員傷、脱臼の理学療	· 法〔基礎知	識〕			
	8	捻挫、	靭帯損傷、脱臼	2	捻挫、靭帯損	員傷、脱臼の理学療	[法〔評価〕				
	9	腰部疫	患		腰部疾患の理	<b>里学療法〔基礎知</b> 謂	は~評価〕				
	10	肩関節	5疾患		肩関節疾患 <i>σ</i>	)理学療法〔基礎知	1識~評価〕				
	11	切断①	)		切断・総論、	切断のリハビリテ	ーション、	切断の理学療法			
	12	切断②			切断・総論、	切断のリハビリテ	ーション、	切断の理学療法			
	13	切断③			切断・総論、切断のリハビリテーション、切断の理学療法						
	14	関節し	リウマチ①		関節リウマチ〔基礎知識から治療まで〕						
	15	関節し	リウマチ②		関節リウマチ	- 〔基礎知識から治	か療まで〕				

授業科目	     運動器障害理学療法学 B	担当教員	吉田智子		市内整形外科病院にて理学療法
22111		実務 経験	有:■	無:□	士として 10 年以上間勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			